

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	永田 賢介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
NPO論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の授業を受ける「動機付け」と、社会人としての現場で必要になる「自分の意見を持つ力」「コミュニケーション力」に力を割いた。昨年度の改善点として、テストやレポートなどの評価について、明確な基準の設定と開示を丁寧に行なった。 地域包括ケア等における既存の制度と地域の隙間を紹介する他、医療や看護だけでは届かない領域のケアを行うNPOとしてのキャリアを選択したゲストを招いた。患者＝支援が必要な弱者という観点だけではなく、NPO活動の事例で、役割・出番・自己効力感等を育みいきいきと暮らす当事者の営みを紹介した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」において、平均点が昨年度と比較して全体的にやや下降した。一名がほぼ全ての項目に2の評価をつけているように見えるので、よほど相性が悪かったか、何か特別な不満があったのかもしれない。 開講年次や時期のこともあり、国試結果に響く事の無い様、授業の予習復習や課題以外の学習の負担は意図的に減らしていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」において、10項目の設問のうち4問に「自分が学ぼうとしている専門分野の…」と前置きで強調されており、直接的に看護や福祉の専門的知識を取扱うものではない本講義としては、カリキュラムレベルのねらいと設問にズレを感じる。今後については、学生の進路選択においても、カリキュラムマップにおける履修年次等含め再検討の余地がある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「授業の質の評価」において、「学生の参加の機会」と「質問に答える機会」は、それぞれ4.5と非常に高い評価を受けており、高度な知識を暗記するよりも、考え方や事例を元に自分なりの言語化を行うという目標に対しては、適切なプログラムであったと捉えられる。 学生からは「NPOに関心が持てたので、自分でもっと調べてみたい、すぐ役に立つ」という意見があると同時に、昨年に引き続き「4年次履修は辛いので、もっと早めたほうがよい」という意見が見られた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	例年少しずつ改善を重ねて入るが、全体の授業構成は大幅には変わっていないので、取り扱う事例やゲストの選定が授業評価に大きな影響を与えていると考える。 高齢者や障がい者よりも、女性や出産というくくりで焦点をあてた方が地域や社会の問題を身近に感じやすいようなので、次年度に向けて反映させる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. アジアの歴史と文化の概要及び達成すべき目標とは、「アジアの自然や地理、民族、言語の導入を再確認し、この地域における国々の制度や歴史、文化などの多方面から、真のアジアを正確に認識すること」である。学生の「受講動機」において、④「単位数を確保する」の77.8%を除いて、③「関心のある内容である」は11.1%であった。この数値はあまり高くはないが、アジアに対する関心があることは大切なことである。 2. 授業に関する課題やレポートなどの内容を正確に指導できるよう、また、口頭・文書などの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会を作られるよう、今後工夫していきたい。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は79.1点であった。そのうち、80点以上は3名、70点以上は7名ということから、標準レベルに達していた。 2. DP-1の【知識理解】をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識を習得していた。 3. 学生による授業評価においては、「授業に参加するために1回30分程度以上の復習」を「週3回以上」は5人で、「授業の記録作成は主に配布資料に記録した」が10人であった。以上から、全体を通して目標を達成し、知識理解も達成されたといえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は3.7点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は3.8点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は3.7点であった。一方、「職業選択の参考になった」は3.4点であった。以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.2点であったが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合うなどの機会がつくられていた」は3.8点であった。次年度は、授業内で授業に関するテーマを学生に発表してもらう時間を確保していきたい。 2. 「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」で「していない」は9人であった。授業に関連のあるテーマを指示し、授業外の学習に取り組めるよう促していく。 2. 情報・図書館はあまり積極的に利用していなかった。引き続き、授業と関連している他の知識やデータも重視すべきであることを学生に喚起していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	アジアの歴史と文化の標準的レベルは、「アジアに属する地域や国々を、正しく地図上で説明できる。また、多様な分野におけるアジアの歴史と文化の特徴を述べることができること」であり、これは達成できていたと考えられる。また、次年度は教師の一方的な授業形式ではなく、学生の意見や質問を取り入れられるような場面を設けていきたい。
-------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修		115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科ABの全体109名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位数確保」が6%、「関心」が4%、「資格取得」が3%であった。ほとんどがキリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第11に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「16、45、28」で94.68%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「6、0」で6.38%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや 例えは、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、平均値は88.29点であった。分布的には、90点以上が48%、89～80点が42%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は89%であり、79～70点のが11%、69～60点が0%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは11%であった。成績で見ると、知識理解は目標に達した。② 学生の＜知識＞＜理解＞に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「29、47、30」と「29、48、28」で97.25%と96.33%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)に「2、0」と「3、0」で1.83%と2.75%であった。アンケートが試験前の実施であるが、かなり成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「19、41、38」と「20、40、36」で89.91%と88.07%であったのに対し、否定的回答は「11、0」と「13、0」で10.09%と11.93%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する＜意欲＞では肯定的回答は「19、39、39」で88.99%であり、否定的回答は「11、1」で11.01%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得では、肯定的回答はそれぞれ「16、37、38」「13、38、48」で83.49%と90.83%であったのに対し、否定的回答はそれぞれ「16、2」と「8、1」で16.51%と8.26%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「19、45、35」で90.83%であったのに対して否定的回答は「9、1」で9.17%であった。⑦ ＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「14、30、45」で81.65%であったのに対し、否定的回答は「13、7」で18.35%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では1乃至2%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ10.09%と11.93%、＜意欲＞も11.93%であり、＜技術＞ 習得では16.51%であった。その他を見ると、＜コミュニケーション、表現力＞の習得では8.26%、＜倫理・規範＞に関しては9.17%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が1乃至2%台と9.17%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞、並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ10.09%、11.93%、11.01%、16.51%、8.26%であり20%未満に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野では80%台であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	AB両クラスの全学生からの担当教員へ日頃の意見は、知識と理解に關しての難しさにあるが、これまで見てきたように2乃至3人の学生がそのように回答している。いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。今後も、復習しつつ前に進む授業と心がけ、学生とともに進む授業を工夫したい。 ② 学習量の評価を見ると、<授業の記録><1回30分以上の予復習>のいずれに關しても「4、5回」「6回」がいずれも10名以上であり、「2、3回」は20乃至30名であり、「1回」も20名以上である。大きく改善しているが、しかし「0回」がいずれも32乃至33名ある。進め方に関する授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「37、38、28」であった。<理解しやすい>という項目では、「29、48、28」で、ただ否定的回答は「3、0」であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「31、36、31」で、否定的回答は「8、3」であった。<参加の機会>では依然否定的回答が「15、2」と少なくなく、肯定的回答は「23、34、35」に留まった。 ④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布すること、2)予復習の方法を具体的に指示すること、3)毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との關係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき6名が「少しそう思わない」と回答した。最終的に試験を受けた者が全員単位を取得できたが、より明確にしたい。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。<授業の進め方とその向上について>記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが今後も必要である。 ③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との關係と目的、評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書とプリント配布を活用し、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヘルスアセスメント	1	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ヘルスアセスメントの授業にあたっては、以下1. ～5. を大切と考えて、日々の授業を行っている。 1. アセスメントの前提となる知識の理解はもとより、看護の対象者の身体状態を正確に把握するために必要な基本看護技術（バイタルサイン測定技術など）を確実に習得できるように支援する。 2. 「生きている」ための機能に係る主な器官系（呼吸器系・循環器系・消化器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 3. 「生きていく」ための機能に係る主な器官系（感覚器系・脳神経系・運動器系）のフィジカルアセスメントに必要な知識と技術を習得できるように支援する。 4. 看護の対象者を身体的側面のみならず、心理・社会的側面からも総合的に理解することの必要性とその見方・考え方を理解できるように支援する。 5. 演習（技術習得の過程）を通して看護者役割を演じる自己を客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度について考える機会とするとともに、期待される行動変容に繋げられるように支援する。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)による総合評価とした。今年度、秀 1名(0.9%)、優 31名(27.2%)、良 40名(35.1%)、可 30名(26.3%)、不可(再試験該当者) 12名(10.5%)で、クラス平均も72.79±9.77点(最高 93点、最低 43点)と、昨年度とほぼ変わりなかった。全体として「標準レベル」は超えており、各学修目標の達成状況は概ね「達成された」と判断した。 ・受講動機は、当該科目が「必修科目」(99.0%)のため、学生は履修せざるを得ない状況にあるが、例年になく「資格取得に必要」(17.3%)、「単位数を確保する」(8.7%)、「関心のある内容」(6.7%)を受講動機とした学生もいた。 ・学習量の評価は、学生の「やるべきことがたくさんあった」「課題で忙しかった」「課題に時間をかけた」「予習・復習が多い」「課題で一日が終わった」などの記述と併せて、「授業でわからなかったことを調べた」「図書館で文献を調べ知識を得た」「授業で気になるところがあれば図書館で調べた」など、毎回の授業(演習)に真摯に取り組んだ学生の様子を窺い知ることができた。また、「2年生になっても頑張ります」の記述からは、学生の学ぶ意欲の高さが窺えた。 ・到達度自己評価は、殆どの項目が中央値5.0、唯一、「自分なりの目標を達成した」が4.0であった。平均値は4.3～4.7で、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」が高く(4.7)、次いで「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.6)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」(4.5)などに「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.4)といった評価も、学科平均値や全学平均値と同程度であり、数量側から知識理解					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学習準備性として、当該科目が「必修科目」であること、また、例年以上に学生が「資格取得に必要である」との認識も持っていた(17.3%)ことから、学生は「自分なりの目標をもって」積極的に授業に臨んでいたと思われる。受講後の達成度自己評価「自分なりの目標を達成した」(平均値4.3、中央値4.0)、及び客観評価としての総合評価の結果からも、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容妥当性、及びその概ねの達成は裏づけられたと考える。 ・学生の自由記述からも、アセスメントの前提となる知識の理解のために「予習・復習した」り、「本を読み理解を深める努力をした」り、「わからなかったところを自分で調べた」り、「ファイルやノートの整理」を行ったり、「指定図書を利用した」り、「資料を調べ補足していった」りしていた。また、看護の対象者の身体状態を正確に把握するための看護の基本技術修得に向けて、「技術向上に向けた練習」に自主的に取り組んでもいた。学生の記述から、学生は「学生が達成すべき行動目標」の達成に向けて、自主学習や自主練習に努め、日々の努力を惜みず学習に取り組んだことが推察され、本授業は、学生の準備状況に応じた妥当な内容であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・学生114名を対象に、対象の身体状態を把握するためのスクリーニング技術(バイタルサイン測定技術)、「生きている」ための機能に係る呼吸器系・循環器系・消化器系、「生きていく」ための機能に係る感覚器系・脳神経系、運動器(筋・骨格)系のフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザムの習得を目指して、講義・デモンストレーション・技術演習の流れを基本とする1単位 30時間(2コマ連続 8回)の授業を行った。実際は、1単位 30時間に納めるにはかなりボリュームのある内容であり、加えて、バイタルサイン測定技術については実技試験を実施するため、学生にとっては、ある意味ハードな科目と言える。 ・技術演習については、基礎看護学領域助手3名を中心に、毎回2～4名の応援要員(助手・助教、ピアサポーターとしての4年生)を配し、学生個々の技術習得を支援した。ただ、114名の学生の基本看護技術の習得を確実なものとするのは容易ではなく、個別の手当てを十分に行き届かせることはできなかった。こうした反省から、これまで以上に学生の自主練習を促しながら、自主演習に際しては、領域の助手と共に、学生を個別に指導する補充授業に多くの時間を費やした。また、基本看護技術の習熟度向上を目的として、看護学科LMS(Kaname.net)を活用した動画の配信を行い、学習支援の充実を図った。結果として、実技試験は114名中 87名(76.3%)が合格、学生数が多かった割には昨年度とほぼ同数の合格者を得た。筆記試験についても、今年度のクラス平均 72.79点は昨年度のそれ(72.5点)を0.29ポイント上回っており、LMSの利用など、学習支援のための新たな試みが多少は役立ったと思われる。 ・学習量の評価、情報利用、図書館利用については、いずれも8割近い学生が「予習・復習」「自発的学習」「シラバスの活用」「図書館等の利用」に取り組んでおり、積極的・主体的に学ぶ姿勢と学習習慣の定着は図れたと考える。しかし、「あらかじめ授業の計画を立てる」の回答者は59/114名と、全体の78%(46名)にとどまっており、今後、各コマ全体としての関心・意欲・態度の育成と向上が求められると考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)による総合評価としている。今年度、秀 1名(0.9%)、優 31名(27.2%)、良 40名(35.1%)、可 30名(26.3%)、不可(再試験該当者) 12名(10.5%)で、クラス平均も72.79±9.77点(最高 93点、最低 43点)と昨年度とほぼ変わりなかった。全体としては「標準レベル」、各目標達成状況については、概ね「達成された」と判断した。 ・学生による到達度自己評価は、殆どの項目が中央値5.0、唯一、「自分なりの目標を達成した」が4.0であった。平均値は4.3～4.7で、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」が高く(4.7)、次いで「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(4.6)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」(4.5)、さらに「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.4)と、いずれの評価も、学科平均値を大きく上回っており、教員側が客観評価としての総合評価を「標準レベル」と判断したのに対し、受講した学生の目標達成度の主観評価はかなり高かった。自らの目標達成度を高く評価できたことで、学生の次への「頑張り」＝「2年生になっても頑張ります」に繋がったのかもしれない。 ・今後の課題は、「学習計画」立案への意識づけと計画立案のための具体策の検討・仕掛けづくりだと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	笹月 桃子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
遺伝看護学	4	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①外部講師2名とのオムニバス講義であったため、外部講師による集中講義の事前に、基礎知識を整理する時間を設けた ②最終学年での秋開催の講義であったため、参加意欲、参加のし易さを促すために、集中講義とした ③臨床経験の豊富な外部講師にきていただいた ④倫理的側面の大きい分野であるので、知識学習のみならず、今後の職業選択や職業倫理に想いを馳せる思考の時間を設けた
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の問いに「かなりそうだと思う」とした学生は11/13人と高かった。学習意欲の高い学生が多く、講義内容についての関心も高かった。事象を理解する視点や考え方を得ることができた、また自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた、とした学生も同様に11/13人と多く、自覚的評価は高かった。 全講義終了後にテーマを与えた上でレポートを提出させ、それを評価対象としたところ、外部講師の講義から知識や倫理的な課題について教授されたことについて各人理解し、検討することができており、レポート評価も概ね良好であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	母性や助産への進路を検討している学生も多く、また国試対策として知識の整理を希望する学生もあり、職業選択や進路志望、知識習得のいずれにおいても有意義な講義であったと学生は感じているようであった。「4年間でとってよかったと一番思えた講義だった」と自由記載した学生もいた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	外部講師によるオムニバス講義であったため、一部講義内容が重複することがあり、今後調整の方法を検討する必要があると考えられた。外部講師との連携を強化する必要があると考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	我が国においても遺伝看護の第一線で活躍されている講師をお迎えしての講義であり、質の高い内容であったこと、また学生の意欲も高かったことから、学生たちの学びは大きかったようであった。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療と倫理	1	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	医療と関係する倫理的諸問題を講義した。国家試験にも、たまに必須問題で出題されることがあるのでポイントを押さえるよう注意した。 毎回シラバスを説明して講義を開始した。シラバスを参考にしたと答えた学生は80%であり、もともと関心があったようである。 毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し、配点した。 パワーポイントのプリントは文字を少なくして画像を多く紹介した。いくつかの教科書を紹介した。 大教室だったが、集中するように促し、学生の注意は途切れなかった印象である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生は選択科目にしては人数が多く82名であり、最高点93点、最低点67点、平均点83.9点、標準偏差4.4であり、ヒストグラムは平均値の高い正規分布であった。講義後に講義内容の応用問題を出题し解答させたところほぼ全員が毎回講義内容を誤解無く理解していた。誤解は次の時間に必ずフィードバックし訂正した。作文も内容や文体において低くないレベルを保っていた。目標は達成されたと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は選択科目であるが約80%の学生が受講し、強い動機で参加したと考える。「看護倫理」が必修なので、本講義は選択科目として妥当と考える。自由記述では、気になるところをさらに勉強したという意見が多く、関心の高い領域であることをうかがわせた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生から、看護師になる上で大切なことを考える良い機会になった、達成度も高かったなどの意見が多く、真面目に取り組んだ学生が多かったと考えている。参考書紹介なども行ったが、図書館を利用した学生は82名中4名と少なく、一方、ネット利用は37名と多めであった。毎回の作文はあまりに多いのではないかと意見が1人から出されているが、講義をある程度集中して聞いていれば容易にできるので、もう一期は同様とする。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況は、総括的には成功していると考えます。医療倫理は医学の進歩に追いつけないような例も出現してきており、ガイドラインの改定も多数あり、学生への紹介が十分かどうかを常に検証する必要があると考えています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	必修	はい	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course focused on oral communication, specifically vocabulary, speaking, and listening skills in a medical setting. The textbook was Vital Signs 1 (Nan'un-do) which included functional and grammatical targets in a variety of medical contexts. The students engaged in active learning exercises, including dialogue practice, information gap activities, listening challenges, and extensive role plays.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (active participation 45%, homework 15%, vocabulary building 20%, and a final test 20%). The majority of assessment criteria focused on showing evidence of incremental improvements in vocabulary and communication skills. The majority of students in this course earned a grade in the 80-89 range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students showed progress in their interest and attitude towards English. Students are almost always eager to have an opportunity to experience active learning exercises and apply English in medical contexts. The specific skills acquired were functional, in terms of medical vocabulary use and common grammar patterns, and attitudinal, in terms of new approaches to learning English. As a result, students acquired new knowledge and understanding in this course (DP1).
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	The main goal for the next academic year will be to continually transition the Nursing Departments to a medical English-oriented curriculum. This will include integrating increasingly relevant exercises and activities to the new curriculum and creating new assessment tools. Blended learning will be implemented wherever appropriate.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Creating assessment tools to encourage acquisition of medical vocabulary for use in medical situations requires a strong vocabulary component. This will continue to be achieved through weekly assessment and blended learning opportunities. Vocabulary use will be solidified through frequent role-plays and group exercises involving basic grammar and medical vocabulary.
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話B	1	後期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This was an oral communication class which specifically focused on speaking and listening skills. The textbook, Vital Signs (NAN'UN-DO)), focused on building linguistic confidence through basic functional and grammatical targets in a variety of hospital contexts. The students engaged in active learning exercises such as dialogue practice, information gap activities, listening exercises, and practical role plays. They also spent a considerable amount of time building vocabulary before each of the unit lessons.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 15%, class work 25%, homework 10%, vocabulary tests 30% and a final comprehensive test 20%. Students scored well on most areas of assessment, with the majority of students earning a grade in the 80–90 range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students worked hard to study medical vocabulary lists and fulfill the homework requirements every week. Most students showed progress in their interest and attitude towards English, and seemed to appreciate the usefulness of each lesson as it related to their major area of study. Lessons were short and focused, so students could understand and recognize their own individual improvement with each new functional target. The specific skills acquired were not only functional, in terms of basic vocabulary use and common grammar patterns, but also attitudinal, in terms of new approaches to learning and basic communication skills.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	I am extremely happy with the results achieved through the current textbook. My main goal for the next academic year will be to supplement each lesson with outside or student generated materials relating to the topics of each unit, and to reinforce and maintain learned vocabulary through specially developed online resources.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	Current assessment is heavily dependent on class participation and performance on weekly vocabulary tests. Since a considerable amount of homework is based on vocabulary and grammar self- study, students need to continually be encouraged and monitored. Reminders to encourage note taking and keep a careful record of homework obligations may help maintain the students study objectives throughout the course.
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	選択必修	いいえ	115

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教科書「Care giver」に沿って、医療現場における会話の練習、医療の単語学習(病名、症状、薬剤、道具)、文法解説、リスニング練習を行った。②教科書のリーディングは内容、英語共に難易度が若干高く、訳せる学生の数も限られていた。従って「coffee break」に掲載された英文を全員で和訳した。さらにDVDを使用し、映画の医療に関連したシーンを鑑賞し、このシーンについての英文サマリーの和訳を行った。学生評価でも英文サマリーの和訳が楽しかったと評価が高かったのは、予備知識の乏しい医療関係の単語や表現の学習が主であったため、映画で場面設定に対する予備知識をつけて、和訳を行う作業が楽であったためと考えられる。また一般的に医療に関連していないと思われる映画にも、医療問題を暗示するものがあり、これも学生の関心を惹いた要因だと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は91点、再試対象者は1名であった。標準偏差値はSは70名、Aは23名、Bは13名、Cは5名、Dが1名であった。DP1においても「知識の確認、修正、新たに得る」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」項目に高い評価を上げる学生が多かった。しかし、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」や「職業選択の参考になった」項目では、他の項目と比較して評価は若干低かった。看護学科の性質上、英語の授業は選択必須科目という観点から、学生は単位を取得することに重きを置き、将来の職業とは直接的な結びつきを感じることができなかったことが第一の要因として挙げられる。学生には医療現場での国際化という観点から指導を行ったが、実際には学生の認識は高まらなかった。但し、医療英語の習得にはかなりの時間を要し、指導を行ったので、「専門分野で学びを深める」「専門分野で必要となる技術を身につける」の項目では比較的高い評価を挙げた学生が多く、学期末の高得点へとつながったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性:自らが医療現場で役立てることができる英語の修得を目標にする。医療現場で使用される重要な英語表現を身につける。これはCPの『豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける』の目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP:行動目標からみての内容的妥当性:DPの特徴として「職業選択の参考」では高い評価を示す学生と低い評価を示す学生がおり、質問の趣旨を理解することに個人差がかなりあったと考えられる。看護学科における英語学習の観点から、DPの「職業倫理」「職業選択」の項目には質問方法の工夫が必要かと思われる。全般的に、学生はのびのびと英語学習を行っており、授業も楽しかったという意見が寄せられ、以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価： オリエンテーションにおいて学生は評価基準や学習の範囲や課題について、よく理解していた結果が授業の質評価に反映されたと考えられる。②学習量の評価： 看護学科は実習、レポートなどで1年時より専門領域の学習が多いために、英語は授業内で復習すべき点を徹底させ、予習復習時間を短縮できるように配慮した結果、予習復習を行った学生が少なかった。但し、語学学習の習慣化を行うためには、一定量の宿題の必要性も検討すべき課題と感じた。③学習のための情報利用、図書館利用： 、シラバスを参考および活用にした学生は全体の半数であった。英語学習に対する関心度の低さが示す数字なのか、あるいはシラバスを参考にする習慣が身についていないからなの理解できないが、オリエンテーションでの授業に関する情報の徹底化が必要であると感じた。図書館利用は皆無であり、情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護学科の教科書「Care giver」は医療現場で実際使用される場面や語彙が編集されており、学生が教科書に沿って学習することを容易にしているが、英文とその内容の難易度が若干高く、医療現場で実践的に使われる対話文が少なかった。ただし、卒業後も医療現場で英語が要求される場面においても、ハンドブックとしての使用が可能であり、役立つ情報を提供していると思われた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学	1	後期	必修	いいえ	117

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うおとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing (根拠に基づいた看護)を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「疫学」の授業では、疫学研究と主な疾患の疫学データについて解説しました。疫学研究の知識は看護研究でも必要であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値84.1点、中央値86点でした。最高値98点で、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが115名中88名でした。一方、最低値46点で、60点未満は5名でした。授業貢献度を加味した授業評価を行い、3名を再試験の対象としました。再試験では受験した全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、ほとんどの項目において平均値が4.0以上でした。コミュニケーションの項目についてのみ3.7でしたが、授業内容から考えて当たり前です。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。同時期に開講した「保健統計学」と並行して勉強することができました。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、5項目中4項目で平均値が4.0以上でした。特に「説明は理解しやすかった」の項目では平均値4.5と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれてい考えます。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は平均値3.9と低い値でした。この点は昨年度からの課題であり、次年度の新カリキュラムから改善を計画中です。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生は約半分でした。昨年度より予習復習する学生さんが増加しており、大変嬉しく思います。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。この点も学生が興味を持って自ら勉強するような課題を出すなど、次年度に向けた課題と考えます。 自由記載で「後方席の学生がうるさかった」という意見がありました。授業中に何度が注意しましたが不十分だったようです。後方席の声は教壇まで聞こえにくいこともあるので、授業期間中に出席者から意見を聞くなどしたいと思います。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 学生参加型の授業形態などを取り入れることが新カリキュラムの次年度の課題と考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疫学演習	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。今年度より保健師課程選抜が2年生後期終了後となったため、28名が受講した。受講動機では、「資格取得に必要である」71.4%という認識である。他にも「関心のある内容である」「単位数を確保するため」としている学生が各々3名いる。 ②本科目は数的理解および推察・思考・判断を求める内容であるため、受講対象が実習前の2年生であることから、授業計画において、実際の地域課題に即した授業内容を取り入れ、単純から複雑へ考察が深まるように計画した。前年度の学習成果を踏まえ、今年度も基本的展開を同一とし、受講学生の学習進行に合わせて微調整を行う展開とした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、80.2点であり、再試対象者は1名いた。昨年度は、85.2点であった。標準的レベルに達した学生が96.4%であり、内、理想的レベルに達した学生は、64.3%であり、平均値は低いが達せレベルは上昇した。 目標別にみると、思考判断に関しては75.5%、態度に関しては99.0%であった。毎年の傾向であるが、特に本年度はスタートのモチベーションが低い状況がみられ、数的処理に関して苦手意識が強い傾向にある。講義では、地域の具体的題材を取り入れることにより、学習意欲が高まり、保健師としての専門的態度を身に付ける上でも学生の到達度自己評価からも効果的であったと判断できる。 学生の到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業選択の参考になった」が4.0以上であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択希望者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が2年生後期であるため、授業内容の専門性の難易度を考慮することが重要である。 最終的な成績評価からは、理想的レベルに9割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 思考判断および態度に位置付けられた科目である。思考判断に関しては8割、態度はほとんどの者が達成していることから内容的には妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、1回30分以上の準備を4回以上行った学生が71.4%である。課題の提供については、毎時実施していたが、まだまだ全員の学生が取り組む状況でなかったことがわかる。一定の成果は出ていると評価できるが、一方で全員が主体的に取り組むことができるような仕組みを検討する必要がある。 授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。 図書館、インターネットの利用については、7割から8割が利用している。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目であり、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目と全員が認識していた。 この科目は、学習内容の量が多いため、事前課題を中心にポートフォリオ作成している。また、学生に発表や討論で、知識理解を深めるような場を設定している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、68.2(±9.0)点であった。 目標別にみる達成度は、知識理解が61%で「どちらともいえない」、その他の項目、思考判断が80%、意欲関心81%で「達成された」ととらえた。 学生の到達度自己評価は、3.9～4.5であった。「知識を確認、修正、新たに得る」は4.5と高かったが、テストの結果に結びついてなかった。学習する内容量が多いため、知識の定着に難しい点が見られ、この点について、さらに検討していく必要がある。 学生の「学習量の評価」は、事前課題があるため、30分以上の予習に4回以上、学生全員取り組んでいた。復習については、6割の学生が4回以上の復習に取り組んでいた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職に関わる科目でもある。養護教諭を志望する学生が受講する。養護教諭の職務に関わる中心的な科目である。知識理解の面では課題は残るが、概ね内容的には妥当と考える。 ②DP:行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低いが、その他の発表や討論は前向きに実践し、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」は、3.6～4.7であり、とくに学生の参加的な面での 得点が高い傾向がみられた。 「情報利用」のシラバス活用については9割の生徒が利用し、7割の学生が 計画を立てていた。 「図書館の利用」について、全項目6割以上の学生が利用していた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係している科目でもある。学校保健の 基礎的な知識を理解していく科目である。この科目は、学校保健の知識理解を 定着させていきたい。 今後、さらに知識理解を定着させるために必要な方法等についても検討して いきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職に関する科目であり、養護教諭一種免許状取得に必修科目である。学生も、「資格取得に必要である」100%と回答していることから、資格取得に必要と認識している。しかし、「関心のある内容である」は12.5%の回答で、関心が高いとはいえない。 この科目は、養護教諭として、学校における保健教育について知識理解を深めることが重要になる。また、教職課程の実習で、保健指導や保健学習を実践できる力を養うことが重要になる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。						
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など		学生の最終的な成績の平均値は、80.9(±10.0)点であった。全員が標準的レベルに達している。また理想的レベルに達した学生は(概ね80点)6割であった。 教育目標別には、知識理解は67.5%で「やや達成された」、その他の項目は、思考判断86.8%、関心意欲92.5%、技能表現84.0%で「達成された」ととらえる。 学生の「学習到達度の自己評価」は、4.1～4.4であった。すべての項目の点数に大きな開きはみられなかった。。 「学習量の評価」について、学生の予習は事前課題があるため多くの学生が予習に下り組んでいた。復習については個人差が見られたが、半数の学生が6回以上の復習を行っていた。 「学修のための情報利用」について、学生は全員がシラバスを参考にし、それに基づき計画を立てている学生が75%いた。				

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、教職に関する科目であり、3年前期の授業実践に関わる科目履修後が望ましいが、3年後期は実習のため履修することが困難になる。そのため、それらの科目と平行しながら講義を進めている。3年後期の各領域実習期間の集中講義は、学生も履修を望んでいないため、概ね妥当であると考え。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、全体及び、思考判断・意欲関心・技能表現の項目が「達成されている」ことより、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題は無いと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」は、4.1～4.3であり、概ね高い評価が得られたととらえる。 「図書館の利用」について、学習指導案を作成するために、図書や雑誌は、全員が利用していた。データベースの利用63%、インターネットのホームページの利用も88%と多くの学生が活用していた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	3年次の教職に関する科目であり、教職に関わる他の授業も並行して実施され、教職課程の実習に関する授業「事前及び事後の指導」につながっていく科目でもある。知識理解の点については、学習指導要領の理解が深まるよう、現行の使用している教科書と連動して考えさせるなど工夫した。さらに教育実習の「事前及び事後の指導」へと関連付けて指導していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護基礎マネジメント論	2	後期	必修	いいえ	103

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年生の必須科目として位置づけられている。「マネジメント」が意味する内容は、すべての看護職に必要な技能を意味しているが、2年生の学生には、「マネジメント」は特別なものであり、「管理者」が行うものという認識がある。そこでマネジメントの基礎的内容を習得できるように病院や看護のマネジメント、学生自身の実習におけるセルフマネジメントの観点からマネジメントに関する知識や考え方についてイメージ化を図りながら具体的に解説を加えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価は平均点80.6点、最高点は95点であった。理想的レベルとする80点以上が69名(66.4%)おり、達成度は高かった。追試験者1名、再試験者2名はともに標準レベルに達することができた。授業の質評価において平均値3.8と評価し、自己の到達度は平均3.7を示し、知識の確認や、新たな知識の修得に成果がみられた。ただし、授業のための予習や復習に関する調査においては52.5%が全くしておらず、30分程度の学習を1～2回程度は21.6%、3～6回程度は20.6%であった。主体的な自主学習の動機づけが課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP.カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は専門教育科目の看護実践の統合の位置づけにあり、国家試験においても内容を求められるところである。主に医療機関におけるマネジメントの必要性について意識化し、日常の看護ケアにおいても安全で良質な看護を提供するためにはマネジメントの視点は重要と言える。資格取得に必要と答えた学生は9%(8人)で、興味関心があると答えた学生は2.2%(2人)であった。臨地実習においても必要となる科目であり、内容や位置づけはは妥当と言える。 ②DP.行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として看護ケアマネジメントの概要や重要性を理解し、組織的な看護サービスの提供や職業としての倫理的側面など医療環境が求める看護師像についても探求する姿勢を期待している。また、看護学生としての自己の健康管理やセルフマネジメントについて述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は80%、態度90%であった。今後、各論実習や総合実習に向け、知識を基盤に実践者として応用できるように継続的に強化していくこと、また4年次の選択科目である看護マネジメント論に繋げていくことも課題である。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は、看護実践においてマネジメントは日常のこととして意識すること、看護ケアの中のマネジメントの考え方など、実習に関連付けながら教授した。マネジメントされるされることで何が起きるのかを意識し、そのための視点を学生自身で考えられるよう、講義と演習時間を確保し授業展開を図りたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生が実践者として「マネジメント」を意識した看護ケア提供者となれるよう段階を踏まえ、継続的に指導を行って行く必要がある。 また、シラバスを参考にしながら授業計画を立てた学生が29.9%いるものの、全く参考にしない、学習時間の確保ができていない学生の支援、課題提出や魅力あるテーマ、など、魅力ある授業づくりにつながる内容や予習復習時間の確保、図書館利用の機会を増や仕組み作りが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護実践及び専門領域上の自己の課題を探究するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合演習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察するものである。そのため、学生個々の課題への達成感を得るために学習段階を学生自身が実感しながら、主体的学習が進むための学習支援を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、89.1点であり、全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては84.4%、意欲・関心に関しては100%、態度に関しては100%であった。 学生の到達度自己評価においては、3.9から4.1となっている。 また、図書館の利用及び学術データベースの利用について、2名の学生がしていないとなっていることが問題と考える。毎回のゼミにおいて文献学習を進めていく過程において、必ずこれらの作業過程をとるべき状況であった。今後、個別の状況を把握する必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門教育科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況である。本科目は、最終履修学年である4年であることから、まさに学習の集大成と位置付けられる。結果、最終成績評価からみた場合、目標を達成できていると判断でき、看護への新たな目標を学生自身が確認できたのではないかと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	科目が開始した4月～5月の段階では、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのかが模索している状況が見られた。そのため、「何をしたらいいのかが具体的方法を探すことに目が行きがちで、文献学習の期間に費やし、議論を進めるための基盤づくりを徹底した。そのことにより、学生自身が看護総合実習で何を学習する意義を見出すか明確となり、実習を意欲的に実施することができ、達成感を得ることに繋がった。また、基盤づくりの準備状況が実習指導者にも評価されることにより、専門職としての意識を高めることにも繋がった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度、学習段階を踏みながら、基盤づくりのための文献講読に十分な時間をかけたことにより、その後の展開は、学生の主体的学習を可能とした。看護総合実習におけるこれらの教育展開が他の学生にも可能であるか、今後検討していくことが必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。今回の受講動機をみると、「必修科目である」が85.7%で、次に「資格取得に必要である」が14.3%であった。学生は、この科目について、必修科目や資格取得に必要と認識している。 学校保健の実習が初めての学生にとっては、学校保健の実習に行くための基礎的な知識が不足している。その点について、学校保健に関する知識理解を深める授業内容を事前学習に組みこんでいる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、86.7点(±4.3)であり、全員が優・秀の成績であった。 目標別にみる達成度は、思考判断が85.0%、関心意欲が86.4%、態度が92.1%であった。 学生の到達度評価における平均値は、3.0～3.6で、低い項目が、「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を理解することができた」「専門分野に必要となる技術を身に着けることができた」「職業選択の参考になった」であった。学校保健と直接関係しない進路選択をする学生がいることを考慮していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられた必修科目である。しかし、動機を維持していく点は苦慮する。しかし、学生も十分な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、すべての項目が達成されている。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題は無いと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は、2.7～4.1であった。到達度自己評価としては「説明は理解しやすいものだった」が最も低かった。学校保健が初めての経験で既習知識が少ない 点に関係していることが考えられる。事前課題(基礎知識の理解)の確認を行っていき たい。 「情報利用」のシラバス活用については、学生が計画を立てるようさらに検討 したい。 「図書館の利用」については学生はレポートを作成するために、図書と雑誌は、 85.7%、それ以外の項目は全員が活用していた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護総合演習は必修科目であり、看護総合実習の事前事後の演習として位置づけられている。総括的な位置付けであるが、この分野を初めて実習する学生い る。そのため、この分野の基礎知識が不足しており、この知識を理解していく時間確保が必要になる。その結果、実習後のレポート作成の時間が不足することが課 題としてあげられる。学生自身がコミュニケーション力や表現力を高めたと評価した点は、討論を取り入れた参加型の講義という点で評価できる。 以上のことから、各自のレポート作成については、3年次の「看護研究の基礎」の講義を確認しながら進めていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	吉原 悦子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修		7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。実習につながる演習であるため主体的に学ぶ方向に助言を行った。文献の読み込みが浅く、課題を明確にする過程に時間を要したが、メンバーとの意見交換によって少しずつ課題を明確にしていけることができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均は77.5点であり、全員が標準的レベルに達していた。しかし、広い視野を持つことや根拠に基づく実践を志向する点に関しては、課題が残る。特に学習量の評価では4回以上準備を行ったものが全員であったため、課題に関する学習はできていたと考えられるが、課題以外の学習を行っていないものが約3割おり、主体的に関心を深めていく姿勢を培えるような課題を検討していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、看護の統合の科目として位置づけられており、自ら課題を見出し、解決に向かう総合実習の前段階の演習である。集大成の実習に向け、主体的に学習をする科目である。この課題に向け、文献学習を行い、ゼミメンバーでの検討をするなど、学生も積極的に取り組んでおり、一定の成績を修めており内容的には妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	演習は、ゼミ単位で課題について討議検討する方法で進めている。メンバーの意見交換は、偏りはあるものの概ね活発であったといえる。しかし、文献を読み込む 力がまだ不足しており、文献紹介にとどまる例もあった。そのため、ゼミ全体だけではなく、個人別の指導も必要であった。この傾向は来年度も続く可能性があるた め、個と集団での指導内容を検討する必要がある。今回は、自己の課題を探索し、適切な介入方法を検討することが目的であったため、全員が図書館を利用してお り、次年度にも継続していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	自己の課題を探索するために、主体的に課題への介入方法の検討を行う実習の事前事後の演習である。自己の課題を明確にし、介入方法を見つけ、また、実践後 のまとめを行うことで、看護を統合するという点では概ね達成できたのではないかと考える。来年度に向けて学生が課題の明確化にむけて、積極的に取り組み、意 見交換ができる場を設け、指導していきたい。さらに、主体的に関心を深めていく姿勢を培えるような課題を検討していく。
------------------------------	--

学科	看護学科
氏名	隅田 由加里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	大切にしたこと、重点をおいたことについては、①学生との信頼関係を構築するため学生の意見を抽出しながら授業を進行すること。②4年生ということで就職活動と実習、国家試験対策が同時進行の中授業を行わなくてはならないため、学生のスケジュールを把握し、無理がないように努めること。③学生が能動的に行動できる。また思考できるよう、ファシリテーター役割に徹し講義方式にはしないこと。④「看護管理とは何か」「看護管理をなぜ行わなくてはならないのか」が理解できるように導くこと。⑤必要時は具体的な病院での方法などを紹介し、理解しやすいようにする。⑥4年生に実習が成功するためにはどのようなスケジュールで演習を運用すべきかを考えさせタイムスケジュールを立案し、それに応じて遂行すること。⑦チーム意識を高めるため、諸事情で参加できなかった学生への情報の共有を怠らないよう指導する。などである。 数ある総合実習の中で、看護管理は「事故防止」「感染防止」「入院・退院調整」など複数の看護管理を事前学習しなくてはならない。このため学生からも「最も大変な領域」と思われている側面もあり、関心があって選択した学生は2名のみであった。このような背景から「やはり難しい」「大変」「きつい」など負のイメージだけが残存するような演習・実習にはしたくないと考え、事前学習を行うにあたっては、テキストの紹介や学ぶべきポイントなどを紹介した。また学生に事前学習内容をプレゼンしてもらい、理解状況を確認しながら演習は進出した。また彼らは、約1年後には看護師となり社会に出ていくため、各看護管理において、新人看護師が行う内容を説明していくことで、具体的なイメージが持てるように配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今回産業医科大学病院で実習を行ったが、実習の目標に則って学生は評価表を作成し、自己評価と指導者による他者評価で実習を評価した。全員の学生が「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援」「退院支援」「6A病棟」「9B病棟」「緩和ケア部門」において、4段階評価（数字が高い方が評価が高い）において3（通常の助言や指導があればできる）、4（わずかな助言があればできる）で自己評価し、また指導者の他者評価もほぼ同等または学生の自己評価よりも高い評価であった。また実習後は小田ゼミと合同で実習内容を約20分程度にパワーポイントにまとめプレゼンテーションを行ったが、小田教授より看護管理が具体的に理解できていると他者評価を受けた。また、その後、各学生が看護管理に関する小論文を記載した。その記載した論文は小田ゼミと合同で小冊子にまとめることができた。これらの実習後の活動も含め、学生からは「事前準備段階は大変だったが、実りある実習だった」と口頭ではあるが達成感に関する言動も聞くことができた。達成度の自己評価においても、5名の学生が意欲をもつことができた」と評価している。また態度に関してであるが、産業医科大学病院看護部に実習のプレゼンテーションを行った際、必要な書類を準備しファイルにまとめて看護部に提示して説明を行うことができた。このプレゼンテーションは、後日看護部より、産業医科大学病院で総合実習をしたどの学生よりも相手を思いやりわかりやすく説明することに配慮した、最も質の高いプレゼンテーションであったと評価を受けている。以上の内容より上記のように評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 看護管理は看護師、そして病院施設が患者に安全で安楽な医療を提供するための基本として位置づけられ、年々看護学生が学ぶことの重要性が浸透している科目である。「学生が達成すべき実習目標」には、そのような見解が反映されており、「到達度自己評価」において目標達成の平均値は4.3と高い値を示しているため、本科目の内容的妥当性は保証されていると考える。 ②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 科目履修後の学生評価は、「知識を確認、修正したり新たにえることができた」(4.8)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(4.7)、「自分が学ぼうとしている専門分野の、さまざまな課題を検討することができた」(4.6)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(4.2)、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(4.0)、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」(4.2)「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(4.3)と、行動目標に掲げた知識と技術の習得において、高い評価を得ており、DP、行動目標から見て内容的妥当性ありと判断した。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」(4.3)、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」(4.3)、「説明は理解しやすいものであった」(4.7)「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」(5.0)、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」(4.7)と、格差なく高い評価を得ていた。実際の授業は、ゼミ内で自己学習のプレゼンテーションをもとに、チームで話し合いディスカッションしながら理解を深めていきながら、必要時は具体的な説明を加えることで、比較的わかりやすかったのではないかと考える。しかしこの看護管理の総合実習は、どうしても各部門で見学を行うことが多くなる性質がある。このため「自分が学ぼうとしている専門分野において、必要となる技術を身に着けることができた」(3.6)は、他の評価指標と比較すると低い傾向にある。実習計画を立案する際は、技術を高められるよう、施設側とも調整をはかる必要があると考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習量の評価としての「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらいしたか」は、全員が4回以上で、同様に「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらいしたか」についても、1名を除いて5名は4回以上行っている。図書館の利用も多く学生が自主性をもって取り組んだことがうかがえる。 当大学には医療安全の授業の独立した単元はない、しかし現在は、医療安全の知識・技術は臨床においては必須であり、また国家試験においても、問題数は増加傾向にある。この看護管理の総合演習を通して、学生、医療安全との重要性が理解でき、また臨床現場においてどのような対策が講じられているかを学ぶことができたことは有益性があった。 また卒業した学生より、病院に就職し様々な研修を受けたが、病院組織の成り立ちや医療安全・感染管理・物品管理や労働環境の構築などの説明内容が、看護管理の総合実習を行ったことでスムーズに理解できたと連絡があった。これらよりこの実習を行うことの意義の高さを実感した次第である。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、4年間の学びの集大成として、「看護総合実習」の前段に位置づけられた科目であり、学生は3年後期の段階で、各教員のゼミ概要を基に、自らの興味・関心に沿って所属したいゼミを選択・希望する。今回担当した学生の「受講動機」も、これまで同様「必修科目である」(100%)、「関心のある内容である」(16.7%)、「担当教員で選んだ」(16.7%)を挙げており、学生の殆どは、「シラバスに沿って」また「教員のオリエンテーションに沿って」予め授業計画を立てて演習に臨んでいた。本授業の中心はグループ学習活動であり、学修の基本は、個人の「調べ学習」によるところが大きい。学生は、図書館、インターネット等を積極的に利用し、演習に続く「看護総合実習」に向けた準備学習を積極的かつ主体的に行っていた。 今回担当した学生7名の中に9月卒業生が1名いた。9月卒業生については、卒業時期の関係から、他の6名の学生に先行して、7月末に単独での実習を行わなければならない、他の6名とは異なる形で、1人で準備学習を進めることになる。また、看護総合実習(看護管理)の特徴として、医療安全管理、感染管理、医療支援部(退院調整)の他、複数部署での多岐にわたる実習計画を立案しなければならず、①調べ学習の質・量・深さ、②単独での実習計画の立案・実施など、9月卒業生が一人で当該実習を行うについては、学生個人の知識不足を補い、学習レディネスを整えることの難しさを痛感した。併せて、当該実習を担当する各部署・各指導者の負担増に配慮が必要であることなど、9月卒業生が当該演習・実習を行うことでの課題もみえた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の学習到達度自己評価は、DPそれぞれに繋がる(1)から(10)の項目の平均値は4.2～4.8(中央値4.0～5.0)といずれも高値で、すべてにおいて学科平均値を上回っていた。 本科目の中心はグループ学習活動であり、その評価は、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)及び技能表現(DP5)による。 具体的な評価割合は、看護総合実習事前準備としての個人の「調べ学習」の成果;レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力(20%)、実習終了後の報告書等の作成(10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度(20%)としているが、担当学生7名全員(9月卒業生を含む)が、図書館、インターネット等を積極的に利用し、個人およびグループでの学習活動に、主体的かつ積極的に取り組んでいた。 9月卒業生の最終評価は78点、4年次生6名の最終評価は85.7(±4.67)点(最高92点、最低80点)であった。成績の内訳は、秀1名、優5名、良1名で、担当学生7名全員の履修を修了した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生全員が受講動機を「必修科目である」(100%)とした。その他、「関心のある内容である」(16.7%)、「担当教員で選んだ」(16.7%)とした学生もいた。 学習到達度の自己評価については、DPそれぞれに繋がる(1)～(10)の項目のうち、(2)「知識を確認、修正したり、新たにえることができた」(4.8)、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(4.8)、(10)「職業選択の参考になった」(4.8)が最も高く、他の7項目のいずれも学科平均を上回っていた。 学生は、「看護管理」という観点から、物事を多角的・多面的に捉えることの必要性和重要性に気づけたことで、既習の知識や根拠となる事実に基づいて「問い」をもつこと、「問い」への「答え」を導き出すためにとことん「考える」力を得ることの大切さを実感できたようであった。 以上のことから、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、技能表現(DP5)、また全体を通して、学生は概ね目標を「達成できた」と判断した。 成績評価については、個人の「調べ学習」の成果;レポート(50%)、グループ学習後の口頭発表や個々のプレゼンテーション力(20%)、実習終了後の報告書等の作成(10%)、および基礎看護技術演習への参加度・貢献度(20%)を総合的に評価した結果、担当学生7名の全体評価は、84.7(±5.15)点(最高92点、最低78点)となり、成績の内訳は秀1名、優5名、良1名であったことから、内容的にも妥当であったと判断した。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	演習では、4年前期の各論実習が進行している中で、個々の学生状況を考慮しながら、変則的なスケジュールを立て、7月末の完成を目標に、看護管理実習へと繋ぐ学習準備を進めた。途中、基本看護技術の振り返りと知識・技術の定着化を図る目的で、1年生の「看護技術論」(前期)、「生活援助技術」(後期)、「ヘルスアセスメント」(後期)、さらに2年生「診療関連技術」(前期)と本授業をリンクさせ、10～11月までと時期を限って、基礎看護学領域のゼミ生を対象に、1年生に対するSA (Student Assistant)を依頼し、基本看護技術の指導に当たってもらっている。 1年生は、4年生の先輩を先生役として直接指導を受けることで、質問しやすく、また「同じ苦労」を味わってきた仲間としての親しみやすさから、看護技術習得への関心・意欲の高まり、技術演習への積極的な参加など、受講態度や姿勢の変化に繋がっていた。 4年生についても、他者に「教える」体験を通して、最終学年であることの自覚や自分自身の知識・技術の振り返り、また、より深い知識獲得の機会となっていた。110名を超える1年生に看護の基本技術を確実に修得させることは容易ではないが、4年生の力を効果的に取り入れることで、1年生、4年生の双方に、関心意欲(DP3)、技能表現(DP5)の点での相乗効果が得られていると実感した。何より、1年生へ刺激は大きく、先輩の姿に、自分自身のこれから、4年後に自らが目指すべき姿を具体的に思い描けたようで、主体的学修者としての学ぶ姿勢に変化に繋げることができたと考ええる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生は、本授業を通して達成すべき学修目標を概ね達成できており、標準レベル以上の到達度であった。 次年度に向けては、以下の課題(目標)達成を目指す。 ①日々の関わりの中で学習への興味・関心を高めるとともに、学ぶ楽しさを実感させる。 ②学生の内発的動機付け、関心意欲の向上に繋がる学修支援の在り方を工夫・実践する。 ③学習支援者として4年生を活用することで、知識・技術の定着を図るとともに、思考の深化を図る。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合演習は看護総合実習の前で開講し、文献学習から実習目標の策定、実習後の卒業論文作成までを実施する。初回に、看護総合演習・看護総合実習計画を配布し、さらに、国家試験準備、就職活動と並行して実施するための見通しを説明した。それをもとに、3人の学生が「授業を受ける計画を立てた」と回答してくれたが、3人が立てなかったと回答しており、計画立案と意識づけの必要性を感じた。 受講生に在宅看護領域を選んだ理由を聞くと、「本当は小児が良かった」「急性期が良かった」との回答で、在宅看護領域が第1希望でなかった学生ばかりであった。しかも、もともとお互いに話したことがない学生が集まっていた。そこで、なるべく関心のある内容を学習してもらうため、テーマ選びは自分が臨床実習で残した疑問ややり残したと思ったことを選択してもらった。また、看護総合演習はアドバイザー機能や国家試験対策機能も有するため、仲間づくりをかねて1～2週に1回、自分のテーマについて調べた内容を発表し、メンバーでディスカッションする方法を行った。このことによって、テーマに関する知識や課題を共有し、総合実習計画書の作成に関してもお互いにアドバイスできるようになった。ディスカッション形式は、例年、取り入れていることだが、今回の学生は、遠慮があるのか、忌憚ない意見を述べるのがなかなかできなかった印象であった。メンバーでリーダーまたはムードメーカーとなってくれる学生を中心に、グループづくりをしていく必要性を感じた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	4月と臨床実習がない時期は、ほぼ毎週、文献検索とプレゼンテーションしたため、学生は負担もあったと思うが、よく調べて発表してくれたと感じている。授業評価では、6人全員が図書館で学術データベースで検索し、図書や雑誌を利用したと回答している。このことは、大学生としての主体的な学びを身につけ、研究的な視点を養う基盤ができたと評価できる。 しかし、途中から臨床実習で抜けるゼミ生がいたり、就職活動が入ったりして、個人差はあるが、調べる内容やプレゼン用の資料の質の低下がみられた。その分、論文作成時に考察に使う文献が足りなくなり、さらに図書や雑誌を調べることになったため、最終的には学びの質は保てたと考える。論文の時期は、就職試験や国家試験対策と同時に行う必要がある。時間を有効に計画的に行ってほしいことから、教員から強制して面談することを控えていたが、自分が実施した看護を文章にすることができず、相談もせず、論文作成を後回しして、当初の計画より遅れていった。そのため、教員が呼び出しする学生が多かった。 最終的には、全員が論文形式のレポートを提出でき合格できたことで、達成感に繋がったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	看護総合演習は、学生にとっては4年間の総まとめともいえる科目である。自分で領域および教員を選択できる唯一の科目でもある。しかし、関心を持つ領域ではなかったことが、目標の設定ができなかったり、学ぼうとしている分野の意欲が低かった要因の1つであると感じた。そのことを前提にしても、担当教員として、在宅看護領域の興味・関心を引き出せなかったことに大変、責任を感じる。 テーマを決めて実習目標を考え、実習で看護を行って、その結果を根拠をもってまとめる。この作業を、個人の調べ学習とグループワークを通して計画的に主体的に取り組んでいった。看護総合演習のプログラム終了時には、DP2(思考判断)、DP3(関心意欲)、DP5(技能表現)は達成できていた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、「学習の範囲や課題は明らかであった」「説明はわかりやすいものであった」「学生が参加する機会が創られていた」「学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」が平均値に近かった。週1回、文献を要約し、プレゼンテーションし、メンバーでディスカッションする場を作っていたため、学生の主体的参加が可能だと考えていた。しかし、一連の関わりを振り返り、学生が求める対応ではなかった部分を改善したい。また、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は、平均値を下回っていた。評価基準の説明は、4年生全体への科目説明で行われていたが、ゼミ内でも説明する必要があるとわかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護総合演習は、少人数で学生主体で行う科目である。また、卒業論文に相当するものであるため、学生に難度の高い要求をしてしまう。科目の特性を十分説明して理解をえることが、主体的学習に最も必要な事である。「何を、どこまで」を学生自身が考え、行動できるように動機づけしていきたい。また、メンバーでディスカッションする場では、自由な意見交換ができる雰囲気と、明確なディスカッションの課題も必要であることがわかった。 大学を卒業したら、さっそく1年目から事例発表、2年目から病棟での研究的活動に参加するようになる。卒業後、課題を見出し、研究的に取り組むための基盤となる方法を身につけられるように、計画していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①看護研究演習を選択しない学生がほとんどなので、本科目は4年間の集大成の役割をする科目となる。研究演習の代わりとなるようなものを仕上げることを目標とし、前半はグループで進め、後半は個別指導中心の丁寧な授業を進めた。 ②内容の充実を図る目的で学生のテーマを大切にしながらフィードバックを行い効果的な指導ができるように心がけた。 ③卒業前最後の年度になるため社会人としての基礎知識やマナー等にも留意して演習を進めた。 ④本科目と各論実習、就職活動、看護師国家試験の準備が重なり、学生は負担が大きいがすべてがスムーズに進むように、スケジュールを提示し、微調整をしながら進めた。 ⑤授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、意欲を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価の平均は、4.09で肯定的な回答であった。図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために全員が利用したと回答している。学習量においては十分な時間をかけているのか不明なところもあるが、文献クリティークの取り組み状況や、ディスカッションの内容、およびレポートの内容は、学習を反映したものとなっていた。演習が進む経過から、テーマに対する意欲、関心の高まりが感じられ、短い期間の中においては全体を通して目標は達成されたと考えられる。しかしながら、論考が十分だといいい難い面もあり、思考判断において「やや達成された」の評価となった。学生の意見として、「研究の流れや論文を読むことの大切さ、批判的に読み解くことについて学べた」とあり、文献検討は特に頑張ったようであった。国家試験対策の学習との兼ね合いで学習時間がとりにくいところもあるが、できるだけ思考の深まりができるような時間調整の工夫や指導方法を検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目において教育目標が達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は看護学科4年間における学習成果の集大成として看護実践の統合科目としての位置づけである。学生の自己評価、学習に取り組む姿勢、成績が高かったことから、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量は、十分確保されたとはいいいがたいが、図書館の利用については、「授業を通して図書・雑誌を利用した」「CiNiiなど学術データベースを検索し利用した」の割合は100%となっている。学生は、授業中のディスカッションや個別指導された内容などについて次回の授業までに調べて考察することができていた。また、授業時間以外に必要時はメールで指導するなど、学生のモチベーションを下げることなく、学習を進めることができた。結果、学生の主体的・自発的な学習態度は引き出すことができたと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	4年次開講の科目であり、各論実習、就職活動、看護師国家試験の学習と同時並行で行わなければならないため、学生にとってテーマに取り組む時間の確保が難しいことが予想された。これを補うために、スケジュールを提示し、学生それぞれの進行に合わせて微調整をしながら個別指導を進めた。このことは学生の負担軽減になるとともに、テーマについて深く思考できることにつながり、学生の自己評価を見ても効果的であったと考えられる。本科目の履修は学生にとって負担感があると思われるが、4年間の集大成として学びの獲得は大きいので、意欲的に取り組めるように工夫していき
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必修科目として位置づけられている。学生はこれまでの既習の知識や技術の統合を図りながら、自己の課題の明確化と課題達成のための方法を検討し、実習計画を立案する。また、総合実習終了後には成果としてまとめ、看護に対する考察を深める。この間グループメンバーとディスカッションし、共有し合うことで看護の方向性だけでなく、看護観や人間観、死生観の深まりを期待する。最終的に要約としてまとめ、自己の課題達成状況を明らかにする。一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としての在り方についても広く主体的な修得を目指す。学生個々の課題も違い、進捗状況も違うことから、個別的関わりが持てるよう時間的配慮を行った。また、学生の達成感が持てるよう関わった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	グループ7名の学生の到達状況は、平均点81.7点であった。最高92点の学生もあり、達成度においては高く、主体的な学びが出来たとと言える。到達度自己評価において平均4.15であり、特に「専門分野の学びの深まり」や「職業選択への参考」などの項目評価が4.4と高い到達度を示している。自己の課題解決や、先行文献検索は十分とは言えないが、図書館の利用や情報検索は全員が行っている。自ら探求する姿勢や根拠をもとに立証していく過程、また現象を要約し、概念化していく段階を経験することにより、学びを深めたいという意欲の向上につながったと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上に位置づけ 総合演習は、看護総合実習の事前事後学習として位置づけられている。学生の希望により領域が選択され、自己の課題はこれまでの学修状況にも影響を受ける。自己の課題の明確化から始まる演習は学生の個々の重要な学びのプロセスと考えている。一定の評価を得たことから内容的妥当性に問題ないと考えます。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は既習の学修を統合し、看護実践能力を高め、今後も専門職として主体的に看護を探求する動き付けとなる科目である。成績評価、学習態度、等 概ね良好であったことからCPカリキュラム上から内容の妥当性には問題はないと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性については問題はないと思われる。	看護
--	---	----

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は学生の進捗状況を確認し、グループメンバーの共有時間と情報交換、また個別的課題への問題解決に向けた助言など、学生の状況を把握しながら進めた。学生の個人差はあるものの、個別対応により進めることができた。自己の課題を明確化することから始まるため、個人やグループ面接、グループ討議を通じ、理解を得ながらすすめた。文献検索等の時間がかかるが全員、進めるための準備や復習時間を70%(5人)の学生は2～3時間費やし、演習に臨んでいる。今後も、計画的に進めていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「看護実践の統合」の科目であり、4年生の必須科目である。これまでの集大成ともいえる科目である。グループ全員が将来、看護職を目指しており、対象である「人」に向き合い、身近な看護モデルを目標とし、各自の課題に取り組むことができた。現象を概念化し、論文的にまとめるプロセスにおいては学生の取り組みにばらつきがみられたが、個別に対応し、ほぼ達成できた。一連の学修から、看護職としての専門性や実践者としてのステップが踏めるように、計画性を持ち、個別の課題に向き合い進めたい。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	看護総合実習の事前、事後の演習として位置づけられた演習科目であり、前期には抄読会を実施して実習テーマの設定、実習計画書の作成を行う。前年度までは産業看護における企業での実習を行ってきたが、今年度から市町村地域包括支援センターでの実習が追加された。事前に実習指導者と連絡を取り合い、施設側の受け入れ状況と学生の関心テーマとの擦り合わせや、実習期間中に学生が計画可能な介護予防事業の実施状況などの情報を得て、学生がテーマに沿って実習計画を立案できるよう工夫した。学生は、公衆衛生看護学実習(保健師実習)を終えていたが、受講動機では、「必修科目である」「資格取得に必要である」が殆どであり、「関心のある内容である」では9名中1名のみが選択をしていた。学生が本科目の関心を高め、看護総合実習の学修準備性を高めることができるよう、学生が保健師実習を通して学んだ内容を想起し、本科目とのつながりを意識して、看護総合実習テーマを設定できるよう配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終評価となるレポート(平均値86点中央値85点)では、文献を活用して看護総合実習で計画した看護技術に関する文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。また、演習への参加態度も良好であった。以上より、全項目で「達成した」と考えられる。達成度自己評価では、7項目で平均値は改善、それ以外は維持していた。前年度では全ての項目で「⑤かなりそうだと思う」が0名で、「④わりにそう思う」があったことを改善点としてあげていたが、今回は「⑤かないそう思う」の回答数が増加し改善がみられた。いずれも③～⑤で達成したと回答していた。「新たな知識の獲得」、「事象を理解する視点や考え方の習得」「課題の検討力」は達成度が高かったものの、「専門分野で必要となる技術力」では、「③まあまあそうだと思う」が9名中4名と最も多かった。今後、実習の前後に、専門技術の習得を強める必要がある。「学習量の評価」に関しては、ゼミの前後での学習時間は改善されており、3割が課題以外の学修に取り組んだと回答した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」77.8%、「資格取得に必要である」55.6%の順に高かった。達成度自己評価で最も高かった項目は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」について平均値4.1中央値4.0であった。これらから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけは内容的妥当性があると考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価では、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では平均点3.8と4.0に満たっておらず、「⑤かなりそう思う」は0名であった。そのため改善方として、第1回オリエンテーション時にレポート評価、提出物の評価について具体的に評価基準を示すこと、また学生との確認が必要であるとする。それ以外の項目では、前年度「⑤かなりそう思う」の項目0名から、9名中1～2名への改善した。特に、前年度に低かった「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は平均点3.0→4.0へ改善、「理解しやすい説明であった」は平均点3.4→4.0へ改善した。前年度のリフレクションにおいて、改善方として、演習計画の説明を具体的に提示し、また、個々の達成状況に応じた指導をあげており、一定の成果がみられたと考えられる。自由記載では、課題以外の学修では、実習の準備に取り組んだと回答しており、「学修のための情報利用」「図書館、インターネットの利用」は100%であったことなどから、今後は学生の自主的な取り組みの内容をフィードバックしていくよう配慮したいと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成度、授業の質評価及び学習量の評価は、全体的に前年度より改善していた。 また、新規実習施設では、新たな試みとして実習後に報告会を設け、実習テーマに沿って分析結果と考察のプレゼンテーションの場を設けた。発表資料やレポートに対し、実習施設から高い評価をいただき、学生の達成感や自信につながっているのではないかと考えられる。 今後の課題は、看護総合実習と連動させて「専門分野に必要な技術習得」を強化することや、オリエンテーション時の説明と学生との確認作業を行い、「評価基準を明確化」することが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護総合演習	4	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は4年生前期、必修科目である。7名の学生を担当した。受講動機は、「必修科目である」100%、「教員に勧められた」14.3%であった。ほとんどの学生は急性期看護を第一希望していたが、受講動機は必修科目と回答が多かった。 ②看護総合実習の準備として、各学生の希望にそって実習部署の依頼を行った。今年度の希望部署は、整形外科1名、消化器外科2名、循環器外科1名、手術室2名、救急外来1名であった。計画書に必要な論文検索および論文抄読、実習目的にそった事前課題の準備および成果発表、実習に必要な基本的な技術の習得(清潔の援助技術、観察技術、心電図、輸液演習など)、手術直後の観察演習の模擬患者役を通して患者体験および観察視点の復習を行い、実習に向けての知識および技術の習得を行った。 ③看護総合実習計画書作成指導を行い、学生が主体になり、実習の目的を達成するための支援を行い、目的に応じた計画を立案できるようにしている。 ④看護総合実習後に実習をととして、ケースレポートの作成を行うために、基本的な論文作成の説明および記載方法を指導している。 ⑤前期は看護総合実習の準備とあわせて、前期は就職試験の支援、前期・後期をととして国家試験対策の支援を行っている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、平均値88.3(±2.6)であった。全員が理想的なレベルに達していた。その理由としては、実習前の事前課題は、実習中に使用することができる内容であったこと、実習をととしてケースレポート作成に必要な情報を十分得ることができていたこと、その情報をもとに目的にそった考察を行い、自己の看護観を述べることでできていたと評価することができたためである。学習に際して、図書館の利用率も高くみられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をととして、急性期看護について深めたいと考えて受講しており、自分の目的を達成するために実習計画書を作成することができていた。学生の到達度自己評価をみると、3.4-3.7であった。学生は実習に向けての目的のために事前学習および技術演習に取り組むことができていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断は達成度がやや低いが、計画立案は目的を明確にすることができており、目標にそった実習をととして得られた情報をもとにケースレポートを研究論文の書き方で記載することができていた。さらに自己の看護観を見いだすことができていたことを踏まえて、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、3.4-3.7点であった。 演習中は発表を取り入れるなど、学生の成果を共有するように努めた。整形外科、消化器外科、心臓外科、救急外来、手術室での実習を行ったが、異なる部署における看護についての知識の共有に繋がったと考える。 今後も、知識のみではなく技術を取り入れ、学生が主体的に学習することができるようにしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「看護実践の統合」に位置づけられており、学生は既習の講義・演習・実習をととして、急性期看護について深めることを希望して受講している。既習の知識・技術を活かして、各自で計画書を作成して実習を行い、さらに実習の成果をレポートとして論文形式で作成することができており、概ね達成できたと考える。 しかし、今後は急性期看護を第一希望としていない学生も含まれることが考えられるため、学生の希望理由を把握して、学生が急性期看護を深めることができるように指導を行ってきたい。 本科目は看護総合実習の準備および実習後のレポート作成指導に重点をおき、急性期看護について深めるための支援を行っていくだけではなく、この時期は就職試験や国家試験へ向けての時期でもある。そのため科目履修の支援だけではなく、学生の就職活動や国家試験へ向けての生活に根差した指導を行ってきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
救急・クリティカルケア看護学演習	4	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年生前期に既習した「救急・クリティカルケア看護学」の知識を基盤に、特に人工呼吸器装着する患者の看護について、知識だけではなく、実体験を通して人工呼吸器を装着する患者の苦痛や看護の根拠について学ぶ機会とし、講義・演習を振り返り、救急・クリティカルケアにおける看護師の役割について各自レポート作成し発表を行い、学びの共有を行った。 ②救急・クリティカルな状態・状況における患者及び家族に対する倫理的課題や調整について、事例を提示し、グループワークを通して患者・家族・看護師の葛藤について考え、看護師としての行動について考える機会とした。 ③学生の受講動機では、「教員に勧められた」が90.0%と、ほぼ全員の動機になっていた。「関心のある内容である」とする学生は、20%であり、自身の希望による受講は20%であった。 ④外部講師の集中ケア認定看護師による演習を行った。実際の人工呼吸器を用いて、人工呼吸器装着中の患者体験と根拠を押さえながらの看護を実践をすることで、知見を深めることができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の履修者は14名であった。最終的な成績の平均値は、84.29点(SD7.5)点であり、A判定(90+)5名、B判定(80-89)5名、C判定(70-79)4名、D判定(60-69)0名、E判定(59-)0名であった。71%が理想的レベル(80点以上)で、7割が標準的なレベルに到達できた。DP別では、「思考判断について」は72.5%、「意欲関心について」は95%、「態度について」は88.8%であった。全体的に講義に対して、意欲関心はあり、真面目に取り組む姿勢がみられたが、知識が不十分なところがあり、事前学習に課題を残したが、目標はほぼ達成された。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は3.9-4.1に推移しており、20%の学生は「かなりそうだと思う」と回答しており、すべての項目において、ほぼ全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。 講義時間内に、集中して講義課題に取り組める授業構成としており、そのことが学習量の評価の「準備時間」が少ない結果となったと考えるが、学生は講義時間内に集中して学ぶことができていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられる。学生が一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価では、「態度」88.8%、「思考判断」72.5%「意欲関心」95%であった。クリティカルな状態にある患者および家族の倫理的な問題は、救急・クリティカルケア看護において重要な課題である。事例および実際の人工呼吸器の体験を通して、「意欲・関心」の達成につなげ、「思考判断」も70%を超えることができ、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそう思う」に回答しており、平均値も3.9～4.1であった。個人ワークおよび発表の場を設けたことで、個人の学びを共有する機会と学生の質問に対応する機会となった。 図書館の利用において、図書館の利用をしていない学生が1名、インターネットによる文献検索をしていない学生が3名存在していた。教科書を読み込み、レポートをまとめたことがうかがえるが、4年生であれば、最新の情報から学び、その情報をまとめる力も必要となると考える。今後、既習の文献検索方法および文献検索の必要性を説明し、課題への内容の広がりや理解の深まりを支援していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「専門教育科目」の「看護実践の充実」に位置付けられ、4年次の選択科目である。 行動目標については、概ね達成できたと考えるが、科目選択の理由から学生が主体的に学ぼうとする科目紹介を考える必要があると考える。 演習に興味関心を高めることができるような授業展開の工夫を今後も図っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は81.0と全体の平均値79.86を1.14上まわる。また、80点以上の者は12名中9名であり、70点台は3名いた。なので80点以上の者の平均値は83.3とかなり高い。 学生の自己評価は3.4～3.7であり、いくぶん満足していない学生が1、2名いる。「まあまあ思う」という学生が最も多いのは看護学科の学生はやや取り組む姿勢の中に将来への迷いがまだあるからかもしれない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価も3.1～3.7であり、ことに内容の理解について課題があるようだ。講義の内容を更に精選する必要がある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の自主的な学修がまだまだできていない。教職課程は将来の職業選択にかかわるものであるから、そのあたりの工夫が必要だ。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していたが、講義は全学科共通のため120人という規模なので一部からは私語が気になるという声も聞かれた。その学生には私語についての説明を行うとともに、将来的に教職に就く人間を育てるのであるから自主的に私語を控える姿勢を身につけさせることを意図し、私語についても教材化して議論させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は79.94で、平均値79.23を上まわるだけである。80点近い平均値であるから、期待した知識理解に関してとりあえず身についたと見ることが出来る。目標の水準にやや達成されたと見るのが妥当だと言える。 学生の自己評価では、平均値は3.7～4.1のあたりにあり、決して高い評価にはなく、各項目に於いて「全くそうでない」「少しそうでない」というのが1、2名いる。おそらく教職に対して意欲を失っているのかもしれない。「まあまあそうだと思う」以上にほとんどの学生が「わりに」「かなり」に記入した学生は「まあまあ」と書いた学生を上まわっている。その平均値は3.7～4.1であり、昨年より0.2ポイントあがっている。試験の結果を差し引いて「やや達成された」という評価が妥当であると言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。ただ、受講生が非常に多く、学修意欲にばらつきがあることが想定され、さらなる教職課程履修の指導が必要かもしれない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価については3.6～3.9の評価ではあった。説明が理解しにくいとの回答が3名ほどいたが、1年生にはかなりハードルの高い質の内容なので、もう少し配慮が必要なのかと思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	知識の修得についてはやや達成されたと言えることができるが、それは満足できる数字ではない。また、対話的な学びの要素を含む授業改革に努めたいが、それには受講生が全体でも多すぎる。。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○秀7.7%、優7.7%、良38.5%、可38.5%、不可7.7%であった。 ○全体的に良と可に集中しており、集団全体としてあまりよい結果ではなかった。 ○可の学生は授業中に範囲を明確に予告した基礎的問題の正答率が低く、授業参加態度だけでなく試験前の自己学習に問題があるのかもしれない。 ○学科における教職課程の位置づけからみて、学生間に意欲の差が大きいことが予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	○次年度以降は教職コアカリキュラムに対応した授業への変更が予定されている。 ○上記との関係から、総花的な知識の習得の割合が増加することが予想されるため、それらの知識を教職イメージとどのように結びつけるかという、授業以外での 教職課程履修指導との連動が求められるだろう。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	○興味関心あるいは教職課程に対する意欲の向上を促すような工夫を授業内でも行いたい。特に子どもの現代的な姿をイメージさせ、教員としてそこにどのような かかわるのかという観点から、自分自身の問題として理解を進めるようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康と栄養	1	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目では栄養と健康に関して、栄養素の消化吸収・代謝に関する事項、栄養素の供給源となる食品に関する事項、栄養と健康の保持・増進および栄養状態の評価・判定法に関する事項について概説し、「栄養」と看護学生の専門分野である「医学・医療・看護」の橋渡しをすることを念頭において講義を進めた。受講動機の回答では、「必修である」という理由が100%で、「関心のある内容である」と答えたのはわずか1名(1.0%)であった。この結果からも推測されるように、看護学科の1年生の「栄養」に関する関心は低いと思われ、「栄養」についての関心・知識がまだ十分でないことを前提に、「栄養」の基本となる基礎栄養学、食品学、臨床栄養学の分野をオムニバスの講義として実施した。 ②授業の最初に学習準備のためのオリエンテーションとして、シラバスの各項目について説明し、授業計画表を配付した。また、授業の最後に重点項目を列挙したプリントを配付した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均点が、88.4±7.7点で、秀(90点以上)が60名、優(80～89点)が39名、良(70～79点)が12名、可(60～69点)が3名で、不可(60点未満)はいなかった。理想的レベル(90点以上)を超えたものが全体の50%強、標準的レベル(70点以上)に達したものは、90%を超えていた。昨年との比較では、平均点がかなり上がった(昨年:80.5±9.4点→今年88.4±7.7点)。内訳については、成績上位者が大幅に増加し、成績下位者が減少した。 授業評価アンケートにおいて、到達度自己評価の関連項目のすべての平均点が3.6以上(～4.0)であったこと、「自分なりの目標を達成した」の項目で「まあまあ達成した」レベル以上を回答した学生が98.2%であったことより、教育目標は達成できていると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップの位置づけからみての内容的妥当性 本科目は看護学科の教科のなかで“専門教育科目”の「看護を学ぶための基礎」として位置づけられ、必修科目である。講義では、特に、生活習慣病や栄養補給などとの関連において、臨床の現場における「栄養」の重要性について強調している。期末試験では、学生も好成績を修めていることから、内容的に妥当だと思われる。 ②DP、行動目標から見た妥当性 授業準備にも記載したように、看護学科の1年生に対する講義科目であるため、医学・医療に関連付けた「栄養」の基礎知識の習得と理解を目標としている。内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①複数の教員で講義するため授業のやり方が異なる点が以前、問題として指摘されていたが(自由記述より)、最近では各教員の最初の授業で受講のためのオリエンテーションを行った上で、同一教員による講義を可能な限り連続して講義するようにした。また、配付プリントについて、本年度は「教員によりレジュメの書き方が異なりまとめづらい」との意見(1名)があったため、プリントのサイズは統一できるところは統一するよう、今後改善を図りたい。 ②授業の質の評価において、指標4(学生の授業参加の機会)と指標5(学生の質問を受け付け、答える機会)の平均点は、いずれも3.7であった。本科目は「栄養」に関する基礎知識の習得を目標としているので、指標4については、十分な時間の確保は難しいが、指標5の学生の質問に受け答えする機会を授業中に出来る限り作り、より深い理解に繋がるよう授業の進め方を検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①本科目の目標である、「栄養」に関する基礎知識の習得については、期末試験の成績が良好であったことから、おおむね達成できたと考える。 ②「栄養」に関する広範な内容を短時間で講義することになるので、可能な限り授業中に質問する時間を設けて(口頭または文書)、より深く理解できるよう授業改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点(課題)などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.8(±6.4)点であった。成績分布別にみると、90点以上が7%、89～80点が74%、79～70点が14%、69～60点が5%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、約80%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が42%、「わりにそうだと思う」が44%、「まあまあそうだと思う」が13%、「無回答」が1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.3)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が29～30%、「わりにそうだと思う」が38～43%、「まあまあだと思う」が25～27%、「少しそうでないと思う」が1～4%、「全くそうでないと思う」が0～1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.9～4.0)。 「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目9)についても、「かなりそうだと思う」が32%、「わりにそうだと思う」が35%、「まあまあだと思う」が28%、「少しそうでないと思う」が1%、「全くそうでないと思う」が1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値4.0)。 「技能・表現(DP5)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目7と8)についても、「かなりそうだと思う」が27～37%、「わりにそうだと思う」が35～45%、「まあまあだと思う」が17～29%、「少しそうでないと思う」が0～6%、「全くそうでないと思う」が0～1%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.8～4.2)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ(バドミントン、卓球、テニス)の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解(DP1)」、「態度(DP4)」、および「技能・表現(DP5)」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.9～4.1であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で筋力トレーニングやストレッチ、いつもより速く歩くなど意識的に運動を行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生を増やすことである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康危機管理論	2	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生後期の科目である。学生の受講動機は全員の学生が「必修科目である」を選択している。「関心のある科目である」を選択している学生は、5名(5.2%)と少ない。 本科目は1単位であるが、昨今の日本の状況から国民が健康危機に遭遇する事象が数多くみられる。そのため、それらの事象を取り上げながら、看護職としてのどのように考え、対応すべきスキルの必要性について理解を求める。授業開始当初は、災害当事者として事象を捉えていくが、授業進行とともに看護専門職支援者としての立場で思考できるように段階を踏んでいく講義を計画している。 毎時の授業コメントにおいて、授業の理解状況の中から、学生の態度を変化を捉え、授業方法の微調整を行っているが、本年度の学生は、看護専門職としての立場で事象の学習ができていると判断できる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、81.5点であり、再試対象者は1名であった。標準的レベルに達した学生が99.0%であり、内、理想的レベルに達した者は63.8%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては86.6%、意欲・関心に関しては70.0%、態度に関しては69.5%であった。 成績平均値及び知識理解の獲得率を前年度と比較すると、上昇しているが、授業コメント及び意欲・関心、態度では低下している。 学生の到達度自己評価においては、全項目において「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している学生が9割みられる。項目の平均値は、3.6～4.0点と前年度の3.5～3.9点より上昇し、概ね成果が評価はされる。 1単位という限られた授業コマのため、限られたコマ数で効果的な授業を展開するためにも、学修のための主体的行動を支援するための授業展開が今後も検討が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門基礎科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況であるが、本科目は、履修学年は2年後期であることから、授業目標を達成するために低学年の学習内容にあわせ、授業内容および方法の検討を行い、計画したものである。結果、最終成績評価からみた場合、概ね目標を達成できていると判断できる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、半数の学生が予習・復習を実施していない。具体的な課題提供を明示しないと行動に結びつきにくい状況がみられる。本科目は、健康危機管理事象において、社会的関心を向け、看護専門職としての活動内容について講義していくものである。国内外の事象についての話題提供について、学生が主体的に行動し、今後、学修に取り組む仕組みとして、災害地におけるボランティア活動等との体験を語り合う授業に取り組むことを検討したいと考える。 授業の質評価においては、前年度全項目平均点3.3～3.5点であったが本年度3.5～3.9点となり、概ね理解されているが、さらに精度を上げていく必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、学生の学習意欲を高める講義を検討する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	沖 勉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康政策論	4	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保健師コースには必須の科目である。本人の希望もあり、選考された18人である。自発性を持った学生が多く、保健師の卵という感がある。 ① 保健所等実習前に保健福祉行政についての概論を講義し、実習で学習してきた保健福祉計画について講義・ワーキンググループ学習を実施した。 ② これまで学んだことを総合的に活用できる科目であり、社会の動き特に健康に関する幅広い視野・興味を持ってもらうことが何より大切だと考えている。普段の生活の中で興味を感じたことを深めていく力を持ってもらいたいと考えていた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	小テストを2回したが、前回の授業内容はほぼ理解していた。 グループワークでは、北九州市の平成25年策定の健康づくりプランの課題と平成28年度健康づくり実態調査青年期の結果を資料として渡した。実態調査の課題を整理し、青年期の生活習慣病予防のためのユニークな事業を考えてもらった。課題抽出力・事業企画力。プレゼン能力ともほぼ良好であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保健師コースには、必須の科目である。 ①保健所等実習をする際の基礎知識と学ぶこと ②保健福祉計画の策定の方法や健康に関する課題解決方法について学ぶこと 到達度自己評価では、事象を理解する視点や考え方を得ることができたという項目で評価が一番高かったことから、内容的妥当性は割と高いと思われる。職業選択の参考にもなっているという評価もある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	最低限必要な資料は印刷して提示したため、それへの書き込みで授業の記録 としている。これからも必要な資料は印刷して提示したい。 自由記載で「やるべきことが分からなかったという」内容が1件ある。資料を 提示し、それ以外のこともパワポで説明しているつもりではある。 それと対照的な記載「授業で十分学習できた」との評価もあるので、次年度 も同じようなスタイルで授業を進めたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	総括的にはほぼ達成されたと考える。 次年度はより丁寧な解説を心がけ、学生との意見交換も適宜聞しながらの 授業をしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護管理演習	4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4年生後期の選択科目である。保健師課程の学生には必修科目である。受講動機では、「必修科目である」88.2%、「資格取得に必要である」35.3%であり、「関心のある内容である」を選択した学生はいない。受講開始において、公衆衛生看護管理に対する理解が低い状況が伺える。 本科目は、保健師課程実習前に2コマ開講し、終了後開講する計画で実施している。実習での事象を想起しながら、公衆衛生看護管理としての学習を計画している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、92.3点であり、再試対象者はいなかった。全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、思考判断に関しては88.4%、意欲関心に関しては98.8%、態度に関しては100%、技能表現に関しては96.8%であった。学習成果としては、目標は達成できたと考える。 学生の成績評価においては、科目の目的を達成できたと評価できるが、学生の到達度自己評価においては、最終学年の科目であることを鑑みると、全項目においての評価平均が3.4～3.7点であることは、やはり低いと判断するが、前年度の3.2～3.69点に比較すると微増している。今後の本科目の意義を含め学習方法の検討が進めていく。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「専門教育科目」の「公衆衛生看護科目」の位置にあり、選択科目である。保健師課程選択者が受講するため、受講動機は明確であるが、開講学年が4年生後期であるため、卒業後の新人保健師育成から管理的視点にいたるまでの授業内容を計画している。 最終的な成績評価からは、全員が理想的レベルに達成しているため、内容的には妥当であると考えられるが、学生の学習意欲を高める授業展開の検討は、今後も必要である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法の展開において課題の提供について、前年度の結果を踏まえ、学生の実習での成果状況を踏まえ、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にもその状況が反映していると考えられる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、全員の学生がDPの目標を理想的レベルで達成できている。 前年度の結果として、保健師課程を選択している学生は、他学生より国家試験の準備にかかる時間が短いことがあせりとなり、後期に開講する授業の参加状況が消極的となりがちである。特に看護師国家試験合格を第一優先とおく場合に顕著にその状況がみられる。本科目の学習意義の理解と、4年生後期の対応について検討をすすめ、学生が主体的に学習できる環境を検討することとした。その結果、個々の学生にあわせ、題材を提供する形で講義を展開したところ、前年度より講義内容に関心をもち、成績の結果にも一定の成果がみられた。今後もこの取組については積極的に進めていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	布花原 明子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆衛生看護技術論	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生看護関係科目群において、公衆衛生看護の方法と技術を教授する科目である。開講時の学生の準備性は、看護専門科目＜看護実践と応用科目群＞の母性・小児・成人・老年看護学領域の概論の知識を備えていることである。後期にそれらの科目が開講されるため、他科目のシラバスを確認して、看護師課程と保健師課程の科目が連動させることができるよう、他科目のシラバスで進捗を確認して授業計画を立てるようにした。また、受講生の多くが保健師課程への出願につながるように、実践のトピックスを提示し、学生とともに考えていくことを大切にしている。 ②受講動機をみると「必修科目である」23.3%で前年度の61.1%から減少しているが、これは今年度より保健師課程選抜の時期が前期から後期へと変更されたため、後期開講科目は選択科目として認識されているためと考えられる。23.3%の学生はアンケート実施時に保健師課程の出願を決定していることから「必修」として回答したと考えられる。「資格取得に必要である」66.7%（前年度＋5.6）が高く、「関心のある内容である」13.3%（前年度＋2.2）と若干増加し点も、同様の要因が考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は80点であり、昨年度78点より2ポイント上昇した。再試対象は0名。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは17名（全30名中57%）で昨年度より6ポイント上昇した。 ②観点別評価の達成度（客観的）に見ると、知識理解及び思考判断に関する評価は、試験、グループ発表及び質疑応答を通して80.4%であった。保健師課程選抜基準である成績に影響することもあり、学生は真摯に受講し、課題成果の到達状況もよかった。関心意欲及び態度では、日々の授業貢献度に加えて、グループ発表時の質問や発言などの意見交換をみたが、発言者は限られており、達成度は70%であった。 ③学生の「学習到達度の自己評価」では、平均点が最も高かった項目は、同点で「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「コミュニケーションや表現力を学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」で平均値4.1であった。②の客観評価結果との整合性はとれている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、公衆衛生看護関係科目群に位置づけられており、看護師課程の各論領域に関する概論を修了あるいは同時開講している時期である。また、公衆衛生看護学概論を履修した後、方法論としての各論が位置づけられている。「学習到達度の自己評価」をみると、上記にも示したように、全項目ともにほぼ達成されている。受講動機では、「資格取得に必要である」ことや「関心のある内容である」の項目への回答がある。以上より、DP、CP、カリキュラムマップにおいて本科目の位置づけは内容的に妥当であると評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」(平均値4.2 中央値4.0)で最も高かった。他項目はいずれも平均値4.0、中央値4.0であった。昨年度と比較すると、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」及び「説明はわかりやすいものであった」がともに改善されていた。 前年度の改善点として、学生に質問の有無を問いかけても出てきにくい様子であったため、今年度は学生の話し合いで生じた疑問などを取り上げて、教員が全員に向けて説明して補うように工夫した。そのことが効果があったとも考えられる。 学生の授業に臨む姿勢は真摯であり、到達度自己評価で高い項目は、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「コミュニケーションや表現力を学ぶことができた」「職業選択の参考になった」で平均値4.1と前年度より改善していた。 自己学習課題では、図書館での文献検索を必要とする課題を提示していたため、「図書館、インターネット利用」はほぼ100%であると予想していたが、アンケート結果からは「図書館での文献や雑誌、学術データベースおよびネット検索はいずれも50%台の回答状況であった。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	保健師課程に位置づけられる科目ではあるが、今年度より、保健師課程選抜時期が前期から後期へと延長されたため、課程選択を検討している学生全員が受講し、履修者は前年度より10名以上増加した。受講動機では、それらの要件を反映してか、「必修科目」としての受講割合は減少し、「関心のある内容」が増加した。前年度までは、18名保健師課程を中心に必修科目として行ってきたが、今年度は、学生の進路選択に参考になるようなトピックスなどを適宜取り入れ、受講生の満足度を高める工夫を行った。その成果として、「到達度自己評価」「授業の質評価」は全体的に改善された。 一方、「図書館利用」では利用率の回答は、全項目で減少した。課題の提示の方法など今後は改善し、次年度は自己学習時間の確保と図書館利用を促すよう方を検討する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際看護論	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年生後期の科目である。学生の受講動機は「関心のある内容である」75.9%、「単位数を確保する」51.7%が主である。 本科目は1単位であるが、JICA海外活動、外国人看護師および行政における外国人の対応・看護上の問題などを取り上げ、学生の意見交換しながらの展開を実施した。2年生の学生であるが、自身が捉えている現状と実態の違いや今後看護専門職として期待されていることに直面し、授業への積極的参加態度が見られた。 グローバル社会における看護専門職として、どのように期待されているかを感じることができたのではないかと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、84.3点であり、再試対象者は1名であった。標準的レベルに達した学生が96.7%であり、内、理想的レベルに達した者は84.3%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては86.5%、意欲・関心に関しては82.3%、態度に関しては86.9%であった。 学生の到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいという意欲をもつことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が4.0以上となっている。 授業の質評価においても全項目4.1以上と、学生の満足は高いと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「専門基礎科目」の「看護実践の統合」と位置付けられている。「看護実践の統合」は、看護関連科目の学習が進んでいく中で統合されていく状況であるが、本科目は、履修学年は2年後期であることから、授業目標を達成するために低学年の学習内容にあわせ、授業内容および方法の検討を行い、計画したものである。結果、最終成績評価からみた場合、概ね目標を達成できていると判断できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、半数の学生が予習・復習を実施していない。具体的な課題提供を明示しないと行動に結びつきにくい状況がみられる。本科目は、健康危機管理事象において、社会的関心を向け、看護専門職としての活動内容について講義していくものである。国内外の事象についての話題提供について、学生が主体的に行動し、今後、学修に取り組む仕組みとして、災害地におけるボランティア活動等との体験を語り合う授業に取り組むことを検討したいと考える。 授業の質評価においては、前年度全項目平均点3.3～3.5点であったが本年度3.5～3.9点となり、概ね理解されているが、さらに精度を上げていく必要があると考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 さらに授業内容を精選し、学生の学習意欲を高める講義を検討する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、教職における実習前後の科目であり、教職の免許状取得のためには必修科目である。学生も「資格取得に必要である」と、全員が認識し受講している。教職の実習は初めて経験することになる。そのため、授業内容に、実習に必要な実践的な演習を多く取り入れている。また、外部講師についても、現場経験のある教育委員会の人権担当者や現職の教諭を講師として招き講話をしていただいている。さらに、4年生の意欲が高まるよう、実習発表会に次年度実習を予定している3年生の参加を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	どちらともいえない	達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績は、82.2%(±5.83)であった。 教育目標別には、知識理解は、68.6%で「どちらともいえない」、思考判断84.0%、関心意欲95.8%、技能表現81.3%で「達成された」である。知識理解は、学習指導要領の基本的な知識を問うたが、理解をさらに深めていく必要がある。 学生の「学習到達度の自己評価」は、3.0～3.4という評価であった。それぞれの項目に大きな開きはみられなかった。 学生の「学習量の評価」は、授業の準備や復習について、取り組んでいないと自己評価している学生がみられた。しかし、実際は、事前の課題や事後のレポートを提出しているため、学生の自己評価と異っている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみた内容的妥当性 本科目は教職の実習前後に位置づけられた必修科目である。学生の実習に必要な事前指導を中心に実施しているため、内容的には妥当であると考え。 ②DP,行動目標からみた内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解は「どちらともいえない」という結果であるが、他の項目は達成されている。内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」は、全項目2.9～3.3という評価であった。 学生の「学修のための情報利用」は、利用している学生が、利用していない学生よりやや多かった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、教職における実習前後の科目である。実習の成果と関連してみると、概ね事前及び事後の指導は、達成できたと考える。知識理解に関するテストにつ いては、学生が学習を深めるように再度検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	工藤 二郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学総論	1	後期	必修	いいえ	117

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生は1年生であり、医学用語を初めて学習するため、できるだけ平易な説明をした。 毎回シラバスを確認し、各授業の目標を明らかにして授業を開始した。授業終了時には予習を促した。 キーワードのノートを毎回チェックし、書写を促し、また漢字の説明をした。 パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように心がけ画像を多く紹介した。 キーワードのノートを使って予習をしていた学生もいた。これを使って復習したという学生もいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講人数は116名、最高93点、最低41点、平均点75.9点、標準偏差7.8で再試を受けた者が5名であった。5点ごとに区分したヒストグラムのカーブとしては、最下位の学生2人以上の者114名については正規分布と考えてよく、良好な教育がなされたと考えている。最下位の学生2名も再試験にて合格点を獲得した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は臨床の土台となる極めて重要な科目であり、国家試験でも多くの試験問題と関連する。膨大な記憶事項が含まれるが、これ無くして臨床を遂行することはできないので、必須科目として客観評価を行い、不合格者も再試験や再履修で理解度を高めることが必要である。内容として妥当と考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本試験の結果が良くない医学生もいたので、例えば新規にノートを作る、図を書かせて理解させるなどの働きかけが必要だったかもしれない。来年度は試みようと考えている。学習量の評価では、たくさんの学生が自ら学習した様子が伝わってきた。学生からの質問は見当たらない。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成度としては良いレベルに達したと評価している。ただ、教科書は大事な点のまとめにすぎず、実際の病人に対応するにはレベルが異なる。実習、演習、講義の学習組み合わせで自分のレベルを測定するよう促したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病学特論	4	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業が近い4年後期の看護学科の学生に、医療現場で重要性の高い疾病学の知識や医療技術を改めて解説しました。応用力をつけることに重点をおきました。また、看護国家試験に向けた知識の整理も出来るように心がけました。自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、ポイントを絞って分かりやすく講義したつもりです。授業期間が終了後も、4年生からの個別の質問には最優先で対応しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「関心のある内容である」が最も多く、看護師となって臨床現場で働く自覚や国家試験に向けた強い意識の表れだと思います。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	3回行った試験の平均値は80.6点でした。学生間で成績のばらつきはありましたが、知識理解については全員が標準レベルには到達していると判断しました。本科目を選択した4年生は全員が看護師国家試験に合格しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目は平均値4.3と高い値で、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目も平均値4.1と高い値です。看護師として働く上の基礎を改めて確認して貰えたものと嬉しく思っています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護実践の充実」に属します。看護学科の学生は1年次に「看護形態機能学」「感染と免疫」などで基礎医学を学び、「疫学」「保健統計学」などで社会医学を学びました。そして、1年次の「疾病学総論」に続いて、2年次に「疾病学各論Ⅰ＆Ⅱ」「看護のための臨床検査」「薬理学」などで疾病の病態・症状・診断・治療などの臨床医学を学びました。それらの知識をもとに、様々な看護科目の授業・演習・実習で看護学を学ぶことができました。病院実習では実際の患者の看護を経験してきました。それらを踏まえたうえで、4年次に改めて医療現場で応用できる疾病の知識や医療技術を解説したのが本科目です。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、「説明は理解しやすかった」の項目は平均値4.6と高い値でした。ただ、学生参加については平均点4.0と評価がやや低い傾向にあります。このことは次年度に向けた課題と考えます。自由記載でも「分かりやすかった」とする評価が多かったです。また、学習量をみると、半分以上の受講生が30分程度の予習復習を4回以上行っていました。また、約3割の受講生が図書館を利用しており、全体的に受講生が積極的に取り組んだものと嬉しく思っています。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生の授業に対する意欲、試験の成績、到達度自己評価などより、全員が標準的レベルに到達することができたと判断しました。看護師国家試験の結果は良好でしたが、今後、本科目で学んだ内容を忘れずに看護師として活躍されることを祈っています。昨年度からの課題として学生参加などを取り入れたいのですが、講義数が8コマであり、内容も膨大であるためなかなか困難です。今後、工夫したいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	矢原 充敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、前期の「情報科学演習Ⅰ」の内容を受けて、ICTの幅広い基礎スキル修得を主目的とした授業である。「情報科学演習Ⅰ」で基礎的なスキルと知識は終えているため、本科目では、より実務的なPCを用いた表現手法やデータ活用手法の修得に重点を置いた。 受講動機では、「関心のある内容である」が4割程度に対し、「単位数を確保する」は8割程度となっている。前期の「情報科学演習Ⅰ」の最終日に「情報科学演習Ⅱ」の受講意義についての講義を行い理解を促したが、前年より数値が落ちており十分な改善がはかられていない点は、更なる検討の余地がある。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79.3点であり、再試験対象者は0名であった。評価が「優」以上の学生が7割を超えている結果から、授業目標である理想的なレベルを達成できたといえる。 学生の到達度自己評価でみると、全ての項目で「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」が多くの比率を占めており、前期の「情報科学演習Ⅰ」からの継続性を考慮した授業目標を達成できていると考えられる。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は「かなりそう思う」が他の項目に比べて高くなっており、本授業の趣旨目的から授業目的を十分に達成できている結果といえる。 しかし、専門分野との関係性に関する項目では、「かなりそう思う」の数値が上がってきていない。看護科を意識した内容や課題を取り入れているが、専門分野を意識させるさらなる授業内容の構成が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられ、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活において必要とされるICT基礎スキルと知識を修得する目的で、1年生前期の「情報科学演習Ⅰ(必修)」に引き続き後期に実施される選択科目である。前期の「情報科学演習Ⅰ」で修得した基礎スキルと知識を活用し、より実務的なデータ等の取り扱いや様々なICTするキルの活用手法等を理解させるよう工夫し、学生も所期の成績を収めており、かつ授業評価の結果からも、その内容については妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 専門分野と絡めた質問項目に対して、「かなりそう思う」の数値が上がってきていない。前年度の反省から看護学科という特殊性を考慮した素材や課題内容等を準備したが、さらなる改善が必要である。また、基本スキルや知識は問題ないが、それらを組み合わせてどのように活かしていくかという点では、その発想力に問題を抱えているが、成績面では内容的に妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、専門分野との関係性について多少改善すべき点はあるものの、内容的妥当性に問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、前年度の反省を踏まえて改善したにもかかわらず、専門分野と絡めた質問項目に対して「かなりそう思う」の数値が上がってきていない点 は課題を残した。看護学科という特性を考慮し、扱うデータや課題内容等に専門性を意識させる内容をどのように取り入れていくかについては、次年度に向けさらなる 検討をしていく。 また、授業以外での如何に活用させるかということも授業のテーマとして取り組んでいたが、授業の課題以外では全く取り組まれておらず、十分な結果を残してい るとは言えない状況である。これについても、どのように授業時間以外での活用を促すかについては、再度検討したい。 学生の意見は、特にここで特筆すべき内容は見当たらなかった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、科目区分「総合人間科学」の「環境と情報」に位置づけられており、社会人基礎力あるいは4年間の学生生活あるいは社会人基礎力として必要とされる ICT基礎スキルと知識を修得することを狙いとしているが、その目標は概ね達成できた。しかし、看護という専門職の中で本科目がどのように関係していくのか問う点 では、昨年度から改善する努力をしたものの、学生に十分な実感を持たせることができず、改善の余地を残した。 以上から、専門職を意識させる取扱いデータや課題内容のさらなる改善を図っていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	高橋 甲枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人急性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、3年次開講の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」99%、「資格取得に必要である」7.9%、「関心のある内容である」2.0%で、関心のある内容であると回答する学生が少ないことが分かる。 ②本科目は、形態機能学、疾病各論、臨床検査など既習の科目と関連するため、学生が想起することができるようテスト形式や質問をしながら講義展開を行っている。手術により切除することでおこる機能障害の理解および看護につながるように講義展開を行っている。 ③講義では、麻酔後の看護を考える際に、実際の写真、DVDなどの媒体を使用して学生が理解できるように工夫を加えた。また乳がんモデル人形などを使用し、学生が実際に触れて考える機会とした。さらに、家族あるいは知人に乳がんモデルで得た知識をもとに指導体験を行い、理解に繋がるようにしている。 ④2名の教員がオムニバスで展開を行っており、それぞれが課題を提示して学生の理解を深めるように努めている。今回、課題内容を3年次前期の「成人・老年看護学演習」および後期の「成人急性期看護学実習」に活用できるような課題に変更した。学生は課題が多いという意見が聞かれたが、この課題がそのまま3年次に活用できることを説明し、必要性を説明したい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の登録者は106名であった。本試験成績の平均値は、69.7(SD6.3)で昨年度より2.4点低下した。本試の判定では、A判定(90+)0名、B判定(80-89)15名と昨年度の25名に比べて減少していた。C判定(70-79)40名、D判定(60-69)41名、E判定(59-)9名であった。9名の再試験者の内、未履修者3名(内2名は放棄)であった。履修者のほぼ全員が標準的なレベルに到達した。14.2%が理想的レベル(80点以上)であったのに対し、D判定、E判定が82名と多くを占めており、これらの判定者の底上げを行う必要があると考える。 目標別にみると、思考判断がやや達成されたであった。学生は事例をもとに判断をする問いに対しての正答率が悪く、知識を応用して思考するに至っていないようである。思考できるような講義内容の検討が必要である。 学生による授業評価においては、「到達度自己評価」をみると、平均値は38-3.9に推移しており、昨年度よりも良い傾向であった。12～17%の学生は「かなりそうだと思う」と回答しており、すべての項目において、9割以上が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答していた。昨年度よりも学生が考える到達度は高いものと考えられる。しかし、予習・復習時間をみると0回が39%と多くみられ、ほとんどの学生があまり学習していないようである。課題を課したため、図書館利用は45.7%が利用していたが、自発的な学習を行っているのは、12名と少なく、65名はしていないと回答しており、自発的な学習ができるように工夫を行う必要があると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目で、既習の形態機能学、疾病各論、臨床検査などの科目と関連している。 既習の知識に繋げながら講義展開を行い、演習や実習を考え、さらに国家試験の出題基準を考慮して講義展開を行っており、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度はやや低く、理想的なレベルに到達した割合が14.2%と昨年度に比べて低い割合であったが、再試験者および未履修者の大幅な増加なかったことから内容的に妥当であったと考えられる。しかし、大幅な講義内容の変更をしていないことから考えると、全体的な学力低下が考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、平均点3.8-3.9と昨年度より平均点が良くなっている。 学生の意見として、課題が多い、テスト範囲が膨大という意見が聞かれた。1つの内容の講義ごとにまとめ或いはミニテストを取り入れているが、最初のオリエンテーション時に範囲が広いことは伝えているが、詳しく説明したいと考える。昨年度、課題の提示時期が定期試験に近かったため、今年度は定期試験の学習を行う時間を考慮し早目に課題提示したため、特に学生から意見を聞くことはなかった。今後も学生の意見を取り入れながら、講義計画を行っていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、「看護実践の応用・展開」に位置し、急性期看護の特徴と定義・概念・理論について理解し、急性期にある対象の特徴、疾患や治療およびその看護について学ぶ科目である。特に周手術期看護を中心に構成され、その後の成人・老年看護学演習や成人急性期看護学実習に繋がる科目である。そのため、急性期特に周手術期の看護について、系統別に講義展開をしている。そのため、範囲が広く、内容も難しいと考えられる。しかし、形態機能や疾病などは既習の内容である。既習の知識を想起させながら急性期特に周手術期の看護の理解を深めるためにDVDや事例を用いながら学生がイメージできるように工夫をしていきたい。さらに3年次の演習や実習に応用できることを意識した課題を提示している。課題内容や時期については検討を加えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	大嶋 満須美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
成人慢性期看護方法論	2	後期	必修	いいえ	111

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。2年生前期科目である「成人・老年看護学概論」を基盤に系統別看護学として発展し、具体的な看護実践方法について疾病学と関連させながら健康障害が生体反応として、どのように生活者に影響を及ぼすのか、特徴を踏まえ看護について思考・判断ができることを意図したものである。学生はこれまで基礎看護学実習の体験はあるが、疾患のイメージがつきにくく、また病態理解も乏しいため、看護の方向性や疾患そのものの理解が出来るよう具体的に説明を加えながら授業をすすめた。また、成人急性期看護方法論の進行状況を確認しながら授業運営をした。科目の対象となる範囲も広く、中間評価を行い学生の到達度を確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合評価は平均点78.3点で、最高点は91点であり、昨年度と比較し平均点が13.5点上回った。再試験者は1名であった。到達レベルにおいては約8割が標準レベルに到達し、理想とするレベルには17.1%が到達することができた。授業評価において「まあまあ理解しやすいものであった」が97.1%と肯定的評価をしている。主体的学習姿勢においてはあらかじめ授業計画を立案したが30%いるものの、残り70%は実施できていない。また、図書館の利用についても同様の傾向にあり、課題やそれ以外の学修の深まりについての対応は今後の課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は専門科目の看護実践の応用として位置づけられている。成人期にある慢性疾患を抱えている対象特性の理解から始まる。既習の疾患理解や疾患による生活への影響など、状況理解と看護支援の基本的な考え方など具現化する必要がある。必須科目であり、国家試験においても内容を求められるところである。資格取得に必要と答えた学生は7.9%(8人)で、興味関心があると答えた学生は2%(2人)であった。臨地実習においても必要となる科目であり、内容や位置づけは妥当と言える。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 本科目の行動目標として慢性病を持つ人とその家族の特徴や日常生活に与える影響、QOIを目指した援助のあり方や、自己の健康管理について述べる事が出来るとしている。これらの「知識・理解」の達成度は82%、「思考・判断」が74%であった。判断の基盤となる知識の定着と思考・判断は継続的に強化していくことが課題である。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性は問題ないが、学生の思考・判断力の育成を継続的に行って行く必要がある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生が授業に主体的に参加でき、討議」できるような「時間」の確保と、それに結び付くような学習課題の提示の在り方について検討を行う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は2年生後期科目である「成人・老年看護論」を基盤に系統別看護学として発展したものである。既習の疾病学や形態機能学など実践応用し成人の慢性病を持つ人とその家族のQOL向上に向けた看護活動を実践するための科目である。実習体験も浅く、受講動機が低いこと、また看護実践能力の中でも思考・判断が必要とされるため主体的学習姿勢が継続的できるように、また思考の方向性を確認しながら演習を取り入れるなどの授業の工夫と展開を行う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	小田 日出子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活援助技術論	1	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年生を対象に「生活援助技術論」を授業するにあたっては、以下1.～4. を大切と考えている。 1. 看護の対象は生活者でもある。人間にとっての日常生活の意味を考え、理解できるよう支援する。 2. 疾病や障害によって日々の生活行動に支障を来した対象者に対し、その人に応じたケアを実践するために、日々の生活援助に必要な知識と技術を習得できるよう支援する。 3. 日常生活援助を実践するについては、常に対象者の安全・安楽・自立を考え、根拠に基づく援助方法を選択・実施できるように、学生個々の思考力・判断力強化を図る。 4. 看護技術習得の過程(演習)では、ロールモデルを演じる中で自らを客観視し、看護者に望まれる姿勢・態度について考え、期待される行動変容に繋がられるよう支援する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、学習ポートフォリオ、演習記録及び学習貢献度(15%)による総合評価とした。総合評価の結果、秀 1名(0.9%)、優 36名(31.6%)、良 47名(41.2%)、可 14名(12.3%)、クラス平均 74.2±9.03点(最高 90点、最低 47点)で、昨年度(72.7±9.67)を幾分上回っていた。「不可」16名(14.0%)については、筆記による再試験を実施し全員が合格、最終的に可は30名(26.3%)となった。クラス全体として「標準レベル」は超えており、各学修目標の達成状況は「概ね達成された」と判断した。 ・学習準備性としては、当該科目が「必修科目」であること、学生は「資格取得に必要」との認識も持っていること(11.9%)などから、学生は自分なりに目標をもって授業に臨んでいたと考える。受講後の達成度自己評価「自分なりの目標を達成した」の平均値4.4、中央値5.0及び客観評価としての総合評価の結果から、DPから見た科目の位置づけ、当該科目の学習目標の内容妥当性及びその概ねの達成は裏づけられたと考える。 ・学習量の評価からは、「予習・復習がたくさん」「忙しかった」「時間がなかった」を理由に、学生は授業の課題以外の学習に取り組むことには消極的だったと思われる。その一方で、「わからないことの調べ学習」「まとめ学習」「復習」、特に「実技の自主練習」については例年以上に熱心で、授業で基本技術を学んだ直後から、その日の放課後や空きコマを利用して、継続して自主練習に取り組む学生の姿を見る機会が多くあり、看護技術習得への意欲は、例年以上に高かった。 ・到達度自己評価は全項目中央値 5.0、平均値は4.4～4.7で、中でも、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が最も高く(4.7)、次いで「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が4.6、「事象を理解する視点や考					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「看護実践の基本」に位置づけられた「必修科目」であり、受講動機が示すように、看護を学ぼうとする学生は履修せざるを得ない(99.1%)。さらに国家試験を受験し看護専門職を目指す学生にとっては、「資格取得に必要」(11.9%)かつ「関心のある内容」(4.6%)であり、卒業要件を満たす「単位数を確保」(4.6%)することも受講動機の一つとなる。学生が「標準レベル」以上の成績結果を残していることから、内容的には妥当であったと考える。 ②DP、学生が達成すべき行動目標からみた内容的妥当性 延述したように、学習到達度の自己評価は全項目中央値 5.0、平均値4.4～4.7で、いずれも学科別のそれを大きく上回っていた。教員側の客観的評価である総合評価を「標準レベル」とした判断に対し、学生の到達度主観評価は昨年度のそれより高く、知識理解 (DP1)、態度 (DP4)、技能表現 (DP5)のいずれについても、内容的に妥当であったと考える。学生の自由記述—「私たちのことをすぐく考えてもらっている授業だった」「技術的には上手にできないことがたくさんあったけど、丁寧に実際の現場の話を交えながら指導してくださり、とても中身の濃い時間を過ごせた」—も、それを裏づけた。 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	・1年後期、114名と多人数の学生を対象に、療養生活を送る人々の日々の生活を整える技術の習得を目指して、5つの単元(活動・休息、食事、排泄、清潔・衣生活、感染予防)を軸に、3単位 90時間の授業を、3人の教員によるオムニバス授業として展開した。3コマ連続 の授業を15回、その殆どを看護技術の演習中心に組み立てる本授業は、学生にとっても、教員にとっても、かなりボリュームのある内容となっている。1年後期に初めて 3コマ 270分に及ぶ演習中心の授業を体験する1年生にとっては、相当ハードな授業と印象づけられることだろう。授業は予習(DVDによる反転学習)→講義・技術演習→リフレクションの流れで進行するため、予習／復習も欠かせない。途中、排泄の単元では「導尿」の実技試験も実施するから、学生にとっては「息つく暇のない」授業であったと思われる。 ・演習には基礎看護領域助手を中心に、毎回3～5名の学修支援者(助手・助教、ピアサポーターとしての4年生)を配し、学生個々の技術習得への支援を行った。しかし、114名の学生に一定レベルの基本看護技術習得を促すことは容易でなく、特に、個別学生に応じた手当てが十分には行き届かないことへのジレンマも感じている。補足手段として、学生の自主練習の折に、可能な限り助手と共に指導に当たるようにし、個別指導の機会を増やすことに努めた。また、基本看護技術の習熟度向上を目的に、看護学科LMS(Kaname.net)を活用した動画の配信も行い、学習支援の充実を図った。 ・「授業の質の評価」では、筆記試験の結果は昨年度を上回っていた。しかし、技術習得に関しては、「導尿」実技試験の結果、本試合格者が114名中 78名(68.4%)と、昨年度より10名程少なかった。実技を再試験となった36名についても、うち4名は再試験も不合格となり、教員による再指導の後、ようやく合格に至った(昨年度、実技再試験での不合格者はいない)。これらの結果からは、個別補習指導や学科LMSの活用など、基本看護技術習得促進に向けた学習支援の試みは、効果性といえる課題を残した。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当該科目の成績評価は、筆記試験(60%)、実技試験(25%)、学習ポートフォリオ、演習記録及び学習貢献度(15%)による総合評価としている。今年度、秀 1名(0.9%)、優 36名(31.6%)、良 47名(41.2%)、可 14名(12.3%)、不可(再試験該当者)16名(14.0%)で、クラス平均 74.2±9.03点(最高 90点、最低 47点)と昨年度(72.7±9.67)を幾分上回っていた。「不可」16名については、筆記による再試験を実施した結果、全員が合格し、最終的に可は30名(26.3%)となった。クラス全体として「標準レベル」、各学習目標の達成状況は「やや達成された」と判断した。 ・学生による到達度自己評価は、全項目中央値 5.0、平均値は4.4～4.7で、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.7と最も高かった。「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が 4.6、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」が4.5と続き、「自分なりの目標を達成した」(4.4)が最も低かったが、いずれも学科別平均値を大きく上回っており、教員側の総合評価「標準レベル」との判断以上に学生の到達度主観評価は高かった。自らの目標達成度を高く評価できたことで、学生の次への「頑張り」や「学修意欲」に繋がっていると思われる。 以上より、今後の課題は、「学習計画立案への意識づけと計画立案のための具体策の検討及びその仕掛けづくり」にあると考えている。
-----------------------	---

学科	看護学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	後期	必修	いいえ	121

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門基礎科目につなぐための一般教養科目として基礎固めを行うために、学生には高校の教科書を手元におき講義内容を確認するよう促した。また、講義内容を振り返り、理解するために学生同士で意見交換をする場を設けた。 ②学生から受けた質問は、個別に回答するだけでなく、全員で共有を図るため講義の中でも回答した。 ③試みとして今年度は、評価対象となるミニテスト・レポートの提出回数を昨年の4回から1回に減らし、学習時間を確保することで、理解した上でレポートを完成させるようにした。 ④また、評価対象となるレポート提出前に、別途ミニテストを2回行い、解説レポートの模範となる、正答を導くまでのプロセスモデルをパワーポイントを使い解説した。 ⑤レポート作成には、教科書を含む複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を積極的に活用するよう促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は74.5点(114名)、再履修者の平均値は57.4点(5名)であった。標準的レベルに達した学生は91%、80点以上の理想レベルに達した学生は35%だった。一方、再履修者(5名)では標準的レベルに達した学生は3名、理想的レベルに達した学生はいなかった。再試験対象者13名(内再履修者2名)のうち、11名が受験し全員合格した。ミニテスト・解説レポートの平均得点は、15.5/20点(得点率78%)だった。 ②自由記述から、「図書を使い調べ学習をする、他の科目のテキストを使い知識を深める」など学生が自ら努力していることがうかがえた。学生の学習量評価では、1回30分以上の予復習を4、5回以上している学生が52%いる一方、30分以上1回もかけてない学生は10%いた。 ③学生の知識理解の達成度は86%で、知識理解の到達度自己評価の平均値は4.5と、学生が知識を確認・修正・新たに得ることができたと回答している。思考判断の到達度は70%で、学生の到達度自己評価平均値は4.3、専門分野の課題を検討する力を得ることができた4.4、的確に判断する力を得ることができた4.3、学びを深めたいと意欲を持つことができたとする自己評価平均値は4.5であった。 ④試験及び課題レポートの評価基準を明確に示す、ミニテスト・解説レポートの回数を減らし学習時間を確保する、学生同士で意見交換させる、質問を積極的に受けるなどの試みの成果か、授業の質評価平均値はいずれも4.4だった。また、説明のわかりやすさは4.5であった。 ⑤図書館の活用率は77%で、22%の学生が図書館の図書を利用していなかった。学生の自由記述から「他科目の教科書を利用した」ためと推察された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は高校生物の基礎を固め、大学の関連科目(形態機能学、疾病学など)につなぐための内容を含んでいる。高校の生物の基礎知識が十分でない学生には、かなり学ぶ内容が多く難しいと思われる。しかし、専門基礎科目につなぐために1年次で身につけなければならない基礎知識と思考の基盤作りという点では、講義内容は妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 看護師国家試験必須問題を意識した内容も入れているが、学生の知識理解到達度、思考判断の到達度からみても科目内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①上記に記載した授業の質評価の結果から、授業についての改善策の効果は出ていると思われる。今後も今までに実施してきた改善策を継続して行う。 ②特に、事前にミニテスト・解説レポートの解説モデルを提示し、評価対象とするレポートの回数を減らしたことは、学生の振り返りや調べ学習にかかる時間の確保 にもつながったと思われる。次年度も引き続きこの改善策を継続し学生の主体学習を促したい。 ③予復習に30分以上の時間をかけてない学生への対策として、時々、ミニ課題をだすことで調べ学習を促すなど、学習量を増やす試みを実施する。 ④自由記述で、「スクリーンを指す赤いポインターの位置がわかりにくい」との指摘があった。ポインターを太い緑に変え、スクリーンを指すときには、ゆっくり、しっ かり指すようにする。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・専門基礎科目として専門科目につなぐために必要な基礎知識・理解、そして課題解決に向け思考するプロセス重視のための基盤作りは、学生の到達度から見て ほぼ達成できたと思われる。今後、引き続き今までの授業改善を継続し実施する。 ・また、成績の低迷に悩む学生については、昨年同様、アドバイザーに連絡し学生に積極的に声かけするなど働きかける。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神看護学概論	2	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が99%、次に「資格取得に必要なである」が10.3%となっている。「関心のある内容である」は1.0%であり、授業内で精神看護に関心に向けて受講できるように身近なメンタルヘルスに関する話題を取り入れた。 ②本科目は、心の健康を保持・増進するための援助法の基礎の科目である。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。 ③学生の主体的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。 ④知識の定着を図るために、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70.9点であり、再試験対象は9名であった。90.7%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは13.1%であった。成績の内訳は、A(秀)が0%、B(優)が13.1%、C(良)が50.5%、D(可)が27.1%、不可が8.4%であった。学生の到達度自己評価は、3.6～3.9で概ね肯定的な評価であった。そのうち知識・理解における自己評価は3.9、思考・判断に関する項目も3.8であった。授業毎に国家試験対策も兼ねて例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。レポートなど課題に対してほとんどの学生が提出することができていた。図書館の利用率は昨年は30%であまり高くなかったが、今年度は62.3%と利用率が上がったのはよい傾向と言える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が10%ほどいる。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学概論は、看護師として必要な精神看護全般に必要な知識と、精神看護方法論につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神科の専門用語の理解が学生にとって難しいイメージがある。しかし、本科目の単位修得は、臨地実習の参加要件になっているため、学生はまじめに取り組んでいる。課題も提出され、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から90%以上の学生が標準的レベルに達している。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容を見ても学生は真面目に授業に参加していた。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、昨年度は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.7であった。昨年度に引き続き、グループ発表の機会を取り入れた成果と考える。しかし、学習量が多いとは言えず、全く予習復習をしていない学生が40%存在するのは問題である。学生の意見として、「課題が多くてできない」「時間に追われている」という意見が出ているが、他の科目の課題も重なっているためだと思われる。他の科目との課題の調整が必要であれば行っていきたい。レポート提出期限がよく守られておりその点はよかった。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識を学んだうえで、精神保健と精神看護全般の基礎を学ぶ科目である。基礎知識の形成についてはおおむね達成できたと思われる。精神症状のイメージがしづらいことや、専門用語が難解であり、学生にとって理解しづらい科目であったかもしれない。事例を多く取り入れることや、ディスカッションする時間を増やすなどで思考する時間を増やしていきたい。学習内容について何をしてもよいかわからないと言う学生の意見も多く聞かれたので、本時のねらいを具体的に示すこと、予習復習の内容を具体的に示すことなど改善を図りたい。精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本につながっていくため精神科看護に興味関心が高まるような授業内容の検討・改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	前田 由紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神看護方法論	2	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は必修科目であるため、受講動機は「必修科目である」が99.0%、次に「資格取得に必要である」が9.2%となっている。「関心のある内容である」は1.0%であり、授業内で精神科看護に関心に向けて受講できるように工夫が必要と考える。しかし、実習に出るための必須科目であるため学生はそれなりの準備性は持って受講していると思われる。 ②本科目は、精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を強調した。 ③精神障害は、イメージがしにくいいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材DVDは、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。また、実習における看護学生と患者との良好なかかわりの具体例を示し、ポジティブなイメージをもつように心がけた。 ④国家試験対策を意識したノート整理の課題を出し、基礎的な知識を確実にするように努めた。冬期休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74.9点であり、再試対象は5名であった。94.4%が標準的レベルに達し、理想的レベル(概ね80点以上を目標)に達したものは27.1%であり、学生の努力が見えた。成績の内訳は、A(秀)が6.5%、B(優)が20.6%、C(良)が43.9%、D(可)が23.4%、不可が4.7%であった。 学生の到達度自己評価の平均は3.78でほぼ達成されたと思われる。学習量は全くしていないと答えている学生が38%存在するが、レポート提出など課題に対してほとんどの学生がやってきており、図書館の利用率が56%の学生が利用していた。内容が不足している学生もあり、指導を要した。冬期休暇中に国家試験に関する課題を組み入れたことで、知識習得に対する自己評価は高く、テストの結果に反映された。国家試験対策も兼ねて確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。授業毎に例題を1問以上解説したことは刺激になってよかったのではないかと考える。知識習得に対する自己評価は高いが、確実に獲得しているとは言えない層が5%ほどいる。確実な知識の習得ができるようにさらに検討を進めたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門科目」であり、必修科目である。精神看護学方法論は、精神科看護の展開において必要な知識と、3年生の精神看護学演習および精神看護学実習につなげる基礎的な知識を網羅している重要な科目である。国家試験に頻出する箇所も多いのであるが、精神疾患を持つ患者の理解が学生にとって難しいようである。しかし、本科目の単位修得は、臨地実習の参加要件になっているため、学生はまじめに学習に取り組んでいる。国家試験および実習を意識した授業になるため、課題は多いが学生も応えており、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からは、94%の学生が目標を達成した。レポートの提出物の内容や、授業毎の質問・感想カードの内容から学生は真面目に授業に参加していたと推測する。本科目の性質上、理解しづらいところは否めないが、レポート課題を課したことで、学生の理解は進んだと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	精神看護学においては、まず疾患に興味を持ってもらうために精神医療関連の本を読んでもらうことにした。グループで本を探し、読んでその本について紹介するというプレゼンを行った。クラスメートが精神疾患に興味を持つためにその本の何を伝えたいのか考えさせ、どのようなプレゼンをおこなったらよいか工夫するように指導を行った。その結果、疾患に興味を持ち授業の理解が深まったという学生の感想があった。学習に対する姿勢が主体的な方向へ変化してきたのではないかと考える。レポート提出期限は全体的に守られていたが、内容が希薄なものもあったので指導を行った。授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.7であるがすべての学生が学習量は多いとは言えない。全く予習復習をしていない学生が38%存在するのは問題である。日常の学習習慣を全員が身につけることが課題と考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、2年生前期の精神疾患の専門知識と、精神看護学概論の基礎知識から、精神疾患を持つ人の看護の基本を学ぶ科目で。本科目の知識は、3年生の演習、実習の基本になるため、精神科看護に必要な基礎的知識の理解、思考の理解が望まれる。近年、ストレス社会において、精神疾患を持つ人が増えており、教授すべき内容も増えた。知識が十分ではない学生、思考の整理が不十分な学生も多々存在するため、3年時の精神看護学演習でそれらを補えるようにしなくてはならない。国家試験を意識させた方が学生も真剣に取り組む傾向にあるが、知識に偏ることなく、精神障害を持つ人への看護の応用・展開につながるようにはいけないと考える。また、国家試験においては災害時の心のケアも盛り込まれており、時代が求めているものを速やかに取り入れることも必要である。学習の基本が身につけていない学生に対して教科書をよく読む、自分でノート整理を行うなど基本が必要と考え、課題として実施したが困難な学生も数人おり今後の課題である。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	石井 美紀代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
対象別保健指導論	2	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護師課程は選択、保健師課程は必修の科目である。昨年度までは保健師課程の選抜試験が2年前期終了時になされていたため、履修者は保健師課程の学生のための学年があったり、看護師課程の学生も2ヶタ以上選択してくれた学年もあったり、さまざまであった。今年度から保健師課程の選抜試験が2年後期終了時となったことから、どんな履修動機でどのくらいの学生が履修登録してくれるか予想が出来なかった。「資格取得に必要である」が最も多かったものの、「関心のある内容である」と答えた学生が6名いたことがうれしい。「単位を確保する」と答えた学生も、この科目を選択してくれたことは、主体的な受講動機があったと考える。保健・予防の視点で医療を考えたり、病院看護職と地域の看護職の連携を考えたりすることは、これからの看護にとって必要不可欠である。今後も、より多くの看護師課程の学生に履修していただきたいと願っている。 授業内容は、15回授業を「健康課題別」「ライフステージ別」の2つに区切って解説した。地域保健活動は、対象のライフステージや健康レベルがさまざまであり、間接的な援助方法を用いるためイメージしにくい。そのため、教科書は予習復習に使い、講義はオリジナルのレジュメと、毎回、保健師ジャーナルから事例を準備した。授業評価では、全員が授業の記録は「配布資料に記録した」としているため、ポイントを整理するためには有効であったと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目成績は、平均点71.9点、「秀」12人、「優」11人、「良」16人、「可」19人、「不可」1人であり、定期試験で再試験者3名中1名が放棄での不可であった。昨年と同レベルの試験問題だが、今回、平均点が2点上がっている。「知識・理解」を問う問題の正答率は8割を超えているが、「思考・判断」を問う問題は点数のばらつきが見られ、全体の正答率は低かった。 対象別保健指導論は、健康課題を顕在化しているものだけでなく潜在化しているものも考えなければならず、1対1の対応だけでなく、「多方面から捉える」「組み合わせで問題解決する」ことが求められる。授業評価の到達度評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方をえることができた」が高いことから、科目の本質については考えられていたのかもしれない。 授業では、小グループでワークシートをもとにディスカッションする時間を作っていたが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する、などの学生参加の機会がつけられていた」では「少しそうでないと思う」まあまあそうだと思うの学生もおり、ディスカッションへの参加度に差があったことが伺われた。ディスカッションに参加し、視点の広がりを得られるように改善していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は地域保健活動の方法論である。あらゆる年代、あらゆる健康レベルを対象とした健康上の課題を捉え、個別・集団・地域のアプローチを組み合わせで支援する内容である。基礎となる知識は、多岐にわたっている。各看護学の保健の部分に加え、健康科学や社会学も必要であり、それらをもとに「思考判断」し、社会の動きを常に学び続ける「意欲・関心」を持ち、保健・医療・福祉の領域と連携する「態度」を養う科目である。 保健師国家試験を視野に入れた内容を実施したので、2年後期ではかなりの難易度だったと思う。いくつかの課題を提示したものの、「授業課題以外に学習に取り組みましたか」では「取り組んだ」と答えた受講生は少なかった。自主的に学ぶことが習慣づけられなかったのが残念である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	15回のうちいくつか課題をだしたが、課題以外に学習したのは4人のみで、38人は課題以外に学習していない結果であった。また、授業後半に、是非学習してほしい内容を授業のテーマごと20項目にして渡した。試験前に自己学習して質問に来る学生が多かったが、学生は手分けしてまとめており、定期テストに問題として出したところ、出来ている人とできていない人の差がかなりあった。これらを自己学習に任せていたが、自分の担当以外のまとめは友人にコピーをもらっただけで学習していない学生が多くあったようである。コピーをもらっただけで学習したつもりになっていることに疑問をもったが、主体性を引き出すことができなかった反省に繋がった。全員に対象別保健指導論を理解してもらう方法をとることも必要かもしれない。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は保健師資格のための学習であることから、方法論を解説するだけでなく保健師ジャーナルで公衆衛生看護で先駆的な活動例を紹介した。保健師ジャーナルは、専門雑誌であるため学生には難しい内容である。授業の最初の何回かは、取り組みの内容を理解するためワークシートを用意し、ポイントを説明しながら読んでいった。学生は保健師専門雑誌にある活動の実際に興味を示し、授業の後半になると、最低限の解説で内容を理解した。昨年までは「授業参加のために30分以上の準備をどのくらい行いましたか」「授業参加のために30分以上の復習をどのくらい行いましたか」では、0回と答えた学生が少なく、どちらも半数以上が3～6回以上の予習・復習をしていた。しかし、今年は、4割の学生が30分以上の準備を1回以下であった。保健師過程を目指している学生と、看護師課程の学生では、意欲と行動に違いがあるように感じる。この科目が看護師課程の国家試験に出題されている事、今後の看護活動は病院完結型では出来なくなっている事、看護師に必要な知識である事、をしっかりと意識させていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	檜原 真二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地方自治論	3	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「地方自治論」は必修科目ですが、看護学科の学生にとっては専門科目とは内容に隔たりがあるため、なるべく理解しやすいようにまた、少しでも興味をもてるように説明することを心掛けています。また、集中講義でもあり、開講時の学習準備なども極めて困難な状況と言えます。以上のような点から、①講義のはじめに板書をすることによってこれから話をする内容のポイントは何かを明確にするようにしました。②レジュメや配布資料を用いて説明するようにしました。③イメージしにくい内容の場合はDVDなどの映像によつての理解促進を図りました。自由記述では「とても興味深い内容でした」、「知らないことばかりで、とても面白くたくさん考える機会を頂きました」というコメントがありましたので、ある程度、講義の目的は達成できたのではないかと考えます。「日程は前期(2ヶ月前)には決めてほしいです」というご要望がありましたが、所属大学のゼミ運営の関係上、不可能です。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中の学生の反応や授業終了後の質問、および、自由記述での「とても興味深い内容でした」、「知らないことばかりで、とても面白くたくさん考える機会を頂きました」といったコメントなどから、教育目標は達成されたと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	子どもの貧困の問題や北九州市の超高齢化などの問題は、看護学科の学生、特に保健師を目指している学生とっても学ぶことは必要かつ重要であるといえ、内容的にも妥当であったと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	看護学科の学生にとって、専門とは大きく異なる領域であったため、昨年同様に、授業のはじめに板書をして授業全体の流れを示したり、DVD等の映像を用いたり、さらにはディスカッションの時間を取り入れたりしたことはよかったのではないかと思います。本講義では、地方自治論(特論)の専門的内容などを教えるというよりも、授業内容を通して考える力を養うことに時間を割くようにしました。この点は昨年さらには一昨年来から課題とした点ですが、おおよそまぐいったのではないかと思います。今年度は「勉強の仕方がわからなかった」「何をすべきかわからなかった」という意見もなく、授業内容やその進め方についても改善できたと考えています。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	看護学科の学生にとっては専門科目とはかなりの隔たりがあり、また集中講義でもあるということを考えると、ある程度、講義の目的等は達成できたのではないかと 思っています。今年度は、勉強の仕方がわからなかったというような指摘もなく、昨年度課した改善点も達成されたのではないかと考えています。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」52.0%、「単位数を確保する」36.0%、「必修科目である」24.0%であった。教職必修科目であり、かつ保健師の資格取得に養護教諭II種が必要であることから、看護学科の大半の学生が履修したと思われる。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたこと、および開講中の2017年10月に衆議院の解散総選挙があったことから、当初のシラバスとは後期計画を変更し、統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行った。また、憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均8%程度であったが、12月に欠席率が32%と20%を示した回が1回ずつあった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は74.85点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点(最高10%)することで総合評価とした。その結果、再試対象者は0名(ただし放棄者1名)、理想的レベル(80点以上)に達した者は28名であった。積極的にコメントを出す学生も多く、関心と学習意欲の高い学生が多かったことが、高い成績を導いたものと思われる。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに3.9、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.8、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.7であった。他の項目の平均値もすべて3.3～3.6の間にある。ほぼすべての項目について、昨年度より上昇している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目でもある。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数以下であることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にしよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値がいずれも3.7で、ほぼ昨年度並みであった。加えて、今回から毎回講義終了後に学生にコメントを任意で提出する機会を与え、毎回40名前後の学生が提出していた。そのためか、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.7となり、昨年度より0.5上昇した。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は49%、復習を全くしなかった学生は46%であった。昨年度よりはやや減少しているものの、今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として「復習」、「自主学習」などの記述があったが、授業以外に学習していない理由として「他の課題でいそがしかったため」、「何をしたらいいかわからなかった」、「時間がなかった」などの記述が見られた。毎回のコメント提出で十分だったせいか、学生の意見は特になかった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方策を検討したいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健統計学	1	後期	必修	いいえ	116

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	疫学・保険統計学は人間集団における健康や疾病の状態を観察および解析して、それらに影響を与える要因を明らかにし、疾病の予防やコントロールを行うおとする学問です。社会医学の基礎であり、臨床医学でも EBN: Evidence Based Nursing (根拠に基づいた看護)を行ううえで疫学の知識が必要です。また、保健師の業務には密接に関連する領域であり、保健師国家試験にも関連する問題が多く出題されます。 学生にとって馴染みの薄い分野ですので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計」を使用して基礎から分かりやすく解説するように心がけました。授業の最初の15～20分は前回の復習にあてるようにしました。 「保健統計学」の授業では、疾病頻度の指標、保健統計調査、スクリーニング、統計学の基礎について解説しました。疫学研究の知識は看護研究でも必要であり、保健師コースを選択しない看護学生にも大切な内容であることを強調しました。 授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」が大多数ですが、「資格取得に必要である」「関心のある内容である」の回答も見られます。看護師や保健師になる自覚や国家試験に意識を持ち始めた表れと考えます。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値80.6点、中央値82点でした。最高値99点で、理想的レベル(80点以上)に到達したひとが114名中67名でした。一方、最低値47点で、60点未満は5名でした。授業貢献度を加味した授業評価を行い、2名を再試験の対象としました。再試験では受験した全員が60点以上でした。このように学生間で成績のばらつきはありましたが、最終的に標準レベルには到達していると判断しました。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、馴染みのない分野にも拘らず、ほとんどの項目において平均値が4.0以上でした。コミュニケーションの項目についてのみ3.8でしたが、授業内容から考えて当たり前です。皆さんが必死に勉強した表れだと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は看護学科の「専門教育科目」のうち「看護を学ぶための基礎」に属します。社会医学の基礎であり、臨床現場でのEBNや看護研究などでも必要な知識です。ここの内容を理解していないと、今後の看護学科での臨床医学に関する勉強、看護師・保健師国家試験、将来の看護師・保健師としての仕事において支障を来します。同時期に開講した「疫学」と並行して勉強することができました。 試験結果、受講生の到達度自己評価などからみても、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけにおいて内容的妥当性に問題はないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートの授業の質評価をみると、全ての項目で平均値が4.0以上でした。特に「説明は理解しやすかった」の項目では平均値4.4と高い値でした。授業の進め方については満足度が保たれてい考えますと。ただ、「学生が参加する機会が作られていた」の項目は平均値4.1と低い値でした。この点は昨年度からの課題であり、次年度の新カリキュラムから改善を計画中です。 また、学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている受講生は約半分でした。昨年度より予習復習する学生さんが増加しており、大変嬉しく思います。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数派でした。この点も学生が興味を持って自ら勉強するような課題を出すなど、次年度に向けた課題と考えます。 自由記載で「後方席の学生がうるさかった」という意見がありました。授業中に何度が注意しましたが不十分だったようです。後方席の声は教壇まで聞こえにくいこともあるので、授業期間中に出席者から意見を聞くなどしたいと思います。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は保健師コースを選択するひとはもちろん、看護学科の全ての学生さんに必要な内容です。学生さんによる成績差はありますが、標準的レベルに到達することができたと判断しました。 学生参加型の授業形態などを取り入れることが新カリキュラムの次年度の課題と考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護学概論	2	後期	必修	いいえ	107

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	H29年度、非常勤として初めて本学の2年生を担当したため、シラバスに沿ってわかりやすい授業に努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生は再試を受けた学生もいるが、全員単位を修得できた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CP,カリキュラムマップから内容的に妥当であるとともに、国家試験受験予定である学生であること、学士課程の到達すべき目標からしても内容的に妥当であると判断する。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	限られた時間の中で、学習量の多い授業であるが、講義内容を減らすことはできないが、H30は学生のレディネスが把握できているので、学生のレディネスを踏まえたうえで、授業を展開したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	最終的には目標はおおむね達成できたが、学生の勉強方法が違うのではないかと感じている。H30はオリエンテーション時に学習の仕方について時間をとって説明する予定である。学生も熱心に聴講する人と、中には講義室の後部座席で小声で話をし、注意をうける学生がいた。次年度は全員が話をせず聴講する講義を目指す。
------------------------------	---

学科	看護学科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性看護方法論	2	後期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は看護実践の応用・展開科目であり、3年生で学習する母性看護学演習やその後の母性看護学実習につながる基本となる重要な科目である。そのため、学生が3年生の講義につながっていることを自覚し講義に臨めるように、関連づけて講義内容を説明してきた。 講義では、周産期における女性の妊娠分娩産褥各期および新生児期における身体的・心理的・社会的変化を中心に学ぶことになるが、周産期各期の変化は大きく、理解すべき知識や支援方法もかなり多い。そのため、できるだけ重要ポイントがおさえられるように、講義で配布した資料に空欄を作って学生自身が講義中に記入する形式を取り入れたり、パワーポイントに示す資料も文字だけでなく、写真や図、DVDなどの視聴覚教材も活用し、学生がイメージ化できるよう工夫した。今年度の、DVD視聴については、より具体的にイメージ化できることを意図し、実際の分娩場面や新生児のケアの様子を撮影した内容のDVDを使用した。また、配布資料に教科書や参考文献のページを示し、講義後でも復習に取り組みやすくなることを意図した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は75点であった。理想的レベルを概ね70点以上として試験を作成し、理想レベルに達したものは87名であった。再試対象は7名であった。再試受験者は全員が標準レベルに達した。 目標別にみると、知識理解80%・思考判断72%であり全体的は標準レベルを上回っていた。思考判断に関する問いについては、得られた知識を活用しておこっている現象をアセスメントするために応用できるかを問うものであり、周産期にある対象者の実際のイメージ化が難しい学生にとっては理解が難しかったと思われるため、視聴覚教材などを活用したことが効果的であったと考えられ、正解率は昨年よりも向上していた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。応用・展開科目であり、知識理解は目標達成されており、さらに、思考判断については更なる方法的に改善の余地はあるものの、3年生に向けて意識付けはできていると思われ内容的には妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価では、90%以上の学生が知識理解や思考判断の観点で達成できたとしている。しかし、再試験者があったことや半数近くが予習や復習をしていないと回答していることから、今後も日々の学習の積み重ねの大切さを意識できるような働きかけを行っていく必要があると考える。また、毎回きかれるように、周産期はイメージが難しいこともあり、学習の難しさにつながっているとも推測されることから、今後もより具体的な事例や聴覚教材を活用し、学生が得た知識を3年生の講義につなげ活用していけるように努めていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	看護の実践の応用・展開科目であり、今後の関連科目につなげて活用していくために必要な基本的な知識理解や思考判断、関心意欲は概ね達成できた。イメージが難しい反面、女性として自分自身の問題として取り組みやすい科目でもある。受講動機では関心のある内容と回答した学生が8.5%であり数値的には低いものの、昨年より多くの学生が興味を示していた。講義を受講することで関心を高め、意欲を持って学習に取り組んでいる姿勢も見られた。昨年よりは再試験者は減少してきており、今後もより効果的な教授方法を検討していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	一期崎 直美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、看護学科の専門科目にあたるが、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目でもある。学生は、資格取得に必要な科目であると全員が認識していた。 この科目は、学校保健後の履修が望ましい。しかし、看護学科のカリキュラムから、学校保健と同時期に履修している。そのため、学校保健の進行を考慮しながら養護概説の授業を進行している。また、事前課題を中心にポートフォリオ作成している。の内容が中心であるが、知識習得につながるための演習も取り入れている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績としては、74.3(±12.8)点であった。 目標別にみる達成度は、知識理解が70%、技能表現が77%で「やや達成された」、その他の項目、思考判断が81%、意欲関心96%で、「達成された」ととらえた。学生の「学習量の評価」は、30分以上の予習に4回以上取り組んだ学生が8割いた。復習については、2回以上の学生が6割、6回以上取り組んでいた学生が2割と開きがみられた。 学生の「到達度評価」における平均値は3.9～4.4であった。項目別に大きな開きはみられなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップの位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は看護学科の「専門教育科目」であり、教職に関わる科目でもある。養護教諭一種免許状資格に関わる中心的な科目である。養護教諭を志望する学生が受講する。知識理解の面や技能表現について課題は残るが、概ね内容的には妥当と考える。 ②DP,行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみると、知識理解の達成度は低いが、その他の発表や演習は前向きに取り組み、ポートフォリオの作成などの成果物からみて内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上のことから内容的妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の「授業の質評価」は、3.8～4.2で、項目に大きな差はみられない。 「情報利用」のシラバス活用については利用していたが、学生が計画的に授業を受講するように促したい。 「図書館の利用」について、全項目、89%の学生が利用していた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	2年次の「専門教育科目」であり、教職に関係している科目でもある。この科目は、学校保健の基礎的な知識理解と、その知識を用いて、養護教諭の職務に応用できる力が必要になる。 同時期に進行する講義「学校保健」の知識の定着化を図りながら、講義「養護概説」を連動させていくように検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学	2	後期	必修	いいえ	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	臨床栄養とは、傷病者のさまざまな病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理を行うことであり、病院で実施される栄養管理は、チーム医療を基盤にして行われるものであることから、看護師として、臨床栄養の基本を理解しておくことは必須である。本科目では、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。 本科目は卒業必修科目であり、ほぼ全学生の受講動機は『必須科目である』との理由であった。また、学修準備性については、約半数の学生がほとんど準備をせずに受講し、受講後の復習も十分でなかった。また、自発的学習に取り組んだ学生においては、全体の4%と非常に少なかった。いずれの理由においても、学生は多忙を極めていることに加え、他科目の課題に取り組むことに精一杯であったためと考えられる。実際、課題以外に学修に取り組みなかった理由として、本理由が挙げられている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の本試験成績の平均値は84.5(±6.3)点であり、本試験合格者は99%であった。実際には、15名(15%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は86名(83%)にも上った。試験内容としては、全て講義内容からの出題であり、学生の到達度自己評価では、全学生が専門的知識および技術の修得ができたと回答していたことから、学生の到達度の高さが実際の成績へと結びついたものと推察される。以上のことから、本科目における教育目標は達成できたものと予想される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。入院患者の栄養管理はチーム医療のもとで実施されており、近年、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師の専門性を発揮することが求められている。つまり、患者の生活を視野におかなければならない看護師にとって、臨床栄養の知識は必須であるといえる。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、大多数の学生が参考になったと回答していたことから、臨床栄養の知識が看護師にとって必要であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答しており、試験成績においても、大多数の学生が好成績を修めていたことから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことに加え、自由記述では『わかりやすかった』『興味を持つことができた』『質問等にも丁寧に対応していた』等の肯定的意見が多かったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、栄養サポートチームなどの活動を通して栄養管理を行う中で、看護師としての専門性を発揮することのできる能力を養い、臨床栄養管理の実践について理解することを目的としている。大多数の学生が好成績を修めており、また、学生の達成度自己評価においても、全学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答していたことから、本科目の内容等についての課題はないものとする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	看護学科
氏名	谷川 弘治

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学	2	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・看護師に必要な臨床健康心理学の基礎知識を身に付け、臨床の場での支援の基本を考えることをねらっている。 ・「かわりながらの患者理解」の方法を論じていくので、関心や学習意欲は高い。 ・「質問・感想・意見」を回収し、質問への回答、学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを、次の回に配付した。 ・看護学生としてなじみのない概念(「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」)などについては留意するようにした。 ・中間テストを配置し、復習を促すようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・本年度の履修登録者は41名と昨年度より減少した(2016;68, 2015;32, 2014;51)。そのうち41名が最後まで受講、期末試験ののち単位認定を受けた。 ・定期試験を終えてのアウトカムは平均点74点でこれまでよりよい成績であった(2016;69, 2015;67, 2014;71)。 ・成績のばらつきは小さく再試験実施者はなかった。ただし、期末テストだけでみると5名(12.2%)が基準を下回っていた。 ・学生の授業評価の関連項目の変化は次のとおりであった。並びは2015→2016→2017(学科平均)である。 ①自分なりの目標を達成:3.4→3.5→3.6(3.9) ②DP1-2関係:知識を確認、修正したり、新たに得ることができた:3.8→3.6→3.8(4.1) ③DP1-2関係:事象を理解する視点や考え方を得ることができた:3.5→3.6→3.8(4.0) ④DP2-1関係:自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた:3.5→3.6→3.9(4.0) ⑤DP2-1関係:自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた:3.4→3.6→3.7(3.9) 評価は上昇傾向ではあるが、看護学科平均には及ばず、まだまだ改善の余地があると思われた。以上から教育目標は「やや達成された」と判断した。 ・全般に受講態度が良く、小レポートの記述も多かった。できるだけ回答を寄せたが、どのように活かされたかは不明であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当と思われる。ただし、1単位8コマでは内容の咀嚼は十分とは言えず、今後もカリキュラム担当者とは協議を続けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・授業そのものは集中して受講していただけたと考えるが、授業の前後で考える機会を提供する点で課題が残った。 エビデンス ・1回30分程度の準備4回以上11. 1%(学科18. 3%) ・1回30分以上の復習4回以上16. 7%(学科18. 7%) ・授業以外の課題への取り組み 22. 2%(学科18. 8%)
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・基準不到達は小レポートの内容からある程度把握できるため、迅速な対応を行う必要がある。 ・準備、復習については課題を提示すること、小テストの内容を検討することを考えていきたい。
------------------------------	--